

# 八王子がわかる事典

記録集

平成 31 年 3 月 31 日

大学コンソーシアム八王子



## 目次

八王子がわかる事典の概要	p.1
八王子がわかる事典のウェブサイト画面	
トップページ	p.4
趣旨	p.5
自然環境	p.6
浅川（自然環境）	p.7
歴史	p.8
八王子の古代（歴史）	p.9
八王子の中世（歴史）	p.11
八王子の近現代（歴史）	p.13
史跡・遺跡	p.15
片倉城（史跡・遺跡）	p.16
八王子城（史跡・遺跡）	p.17
滝山城（史跡・遺跡）	p.19
小仏関所（史跡・遺跡）	p.21
人物	p.24
横山党（人物）	p.25
北条氏照（人物）	p.27
大久保長安（人物）	p.29
松姫（人物）	p.31
スポーツ	p.33
八王子の陸上競技（スポーツ）	p.34
八王子のバレーボール（スポーツ）	p.36
八王子の柔道（スポーツ）	p.37
水泳を通じて社会貢献できる楽しさ（スポーツ）	p.38
農業・林業	p.39
林業施策の概要（農業・林業）	p.40
林業の概況（農業・林業）	p.41
農業の概況（農業・林業）	p.42
執筆者一覧	p.44
リンク集	p.46
表紙写真	p.48
八王子がわかる事典の執筆要項等	p.54



## 八王子がわかる事典概要

### (1) 経緯

平成 18 年度から 20 年度の 3 年間にわたり実施された文部科学省の戦略的大学連携支援事業「八王子未来学の構築を目指した大学・市民・行政からなる大学連携と実践活動の高度化」(八王子未来学)において、「八王子がわかる事典」の編纂が開始され、平成 21 年 3 月に公開された。

同事業終了後、「八王子がわかる事典」の編纂は大学コンソーシアム八王子産学公連携部に引き継がれ、大学コンソーシアム八王子のウェブサイト公開されてきた。しかしながら、平成 29 年度に行ったウェブサイト的大幅改定に伴い、本事典の公開を停止した。編纂からかなりの時間経過に伴い、ウェブ情報の特色であるリアルタイムな情報を提供できないことが主な理由であった。

今後の継続について検討した結果、情報の更新、追加体制を整えることができないことから、「八王子がわかる事典」に関して集約できる情報をまとめた「八王子がわかる事典」の記録集として、アーカイブ化することとした。

### (2) 特徴

大学教職員、行政職員が執筆するウェブ事典として公開することを特徴とした。

### (3) 項目

全 19 件の記載が公開されていた。

ウェブには、非公開状態のものが 1 件あった。(これは本記録にも掲載していない)

#### (4) ウェブの構成とその特徴

##### ① トップページ

- ・八王子市内の写真 35 枚がランダムに表示され、その場所に合わせた google Map が表示された。
- ・本ページからは、目次ページに進むことができた。

##### ② 6 分野の目次ページ

- ・各事典項目名と説明の一部が表示された。

自然環境

歴史

史跡・遺跡

人物

スポーツ

農業・林業

##### ③ 各事典項目のページ

- ・参考文献ならびに執筆者を記載した説明が表示された。

浅川（自然環境）

八王子の古代（歴史）

八王子の中世（歴史）

八王子の近現代（歴史）

片倉城（史跡・遺跡）

八王子城（史跡・遺跡）

滝山城（史跡・遺跡）

小仏関所（史跡・遺跡）

横山党（人物）

北条氏照（人物）

大久保長安（人物）

松姫（人物）

八王子の陸上競技（スポーツ）

八王子のバレーボール（スポーツ）

八王子の柔道（スポーツ）

水泳を通じて社会貢献できる楽しさ（スポーツ）

林業施策の概要（農業・林業）

林業の概況（農業・林業）

農業の概況（農業・林業）

④その他

- ・すべての画面に、趣旨、お問い合わせのページへのリンクが設定されていた。
- ・サイト内検索も用意されていた。



## 目次

- 自然環境
- 歴史
- 史跡・遺跡
- 人物
- スポーツ
- 農業・林業
- 執筆者一覧
- リンク集



八王子駅

Google MAP





## 目次

- 自然環境
- 歴史
- 史跡・遺跡
- 人物
- スポーツ
- 農業・林業
- 執筆者一覧
- リンク集

## 趣旨

『八王子がわかる事典』について

この度は、八王子未来学の『八王子がわかる事典』をご覧いただきありがとうございます。

八王子未来学(正式名称:八王子未来学の構築を目指した大学・市民・行政からなる大学連携の高度化)は、八王子に拠点を置く14の大学・短期大学・高等専門学校の連携による教育・研究プロジェクトです。これまで、文部科学省戦略的  
大学連携支援事業(2008～2010年度)に採択され、「八王子を学ぶ、八王子で学ぶ」をテーマとする各種の課題研究や  
教育事業を展開してまいりました。また、2011年度からは、実施主体を大学コンソーシアム八王子に移管し、地域全体  
が学びの場となる「まるごとキャンパス八王子」の実現を目指した活動を継続することになっています。

そこで、八王子未来学では、参加校による教育・研究の成果を整理しながら、私たちが住む、働く、学ぶ、憩う八王子に  
ついて、これまでの歩みを見つめ直し、また八王子の新たな未来と可能性を拓くための資料集として、webを活用した  
『八王子がわかる事典』を編集・提供することといたしました。

『八王子がわかる事典』は、大学等の研究成果に基づく学術性を確保しながらも、地域密着の事典として幅広い市民の  
方々の利用と参加を求めるものです。また、現時点の項目数は限定されていますが、時間をかけて、継続的に項目の  
拡充と更新を行うことになっています。

今後とも『八王子がわかる事典』をよろしく願い申し上げます。

2011年3月

八王子未来学『八王子がわかる事典』編集委員会  
浅野敬一(東京工業高等専門学校 准教授)

八王子未来学参加校(2008～2010年度):

杏林大学、工学院大学、創価大学、拓殖大学、多摩美術大学、

東京家政学院大学、東京工科大学、東京純心女子大学、東京造形大学、東京薬科大学、

明星大学、創価女子短期大学、山野美容芸術短期大学、東京工業高等専門学校(代表校)

協力:

八王子市、大学コンソーシアム八王子



## 目次

- 自然環境
- 歴史
- 史跡・遺跡
- 人物
- スポーツ
- 農業・林業
- 執筆者一覧
- リンク集

## 自然環境

### 浅川

浅川流域：(あさかわりゅういき) 浅川は、東京都南西部を東流する多摩川の支流で、高尾山や陣馬産を水源とし、途中南浅川、川口川、湯殿川等の支流を合わせながら八王子市の中心部を流れて、日野市落川先で多摩川と合流する総延長30 [...]



## 目次

- 自然環境
- 歴史
- 史跡・遺跡
- 人物
- スポーツ
- 農業・林業
- 執筆者一覧
- リンク集

## 浅川

浅川流域:(あさかわりゅういき)

浅川は、東京都南西部を東流する多摩川の支流で、高尾山や陣馬産を水源とし、途中南浅川、川口川、湯殿川等の支流を合わせながら八王子市の中心部を流れて、日野市落川先で多摩川と合流する総延長30.1km流域面積156.1km<sup>2</sup>を有する一級河川です。

八王子市には、他にも谷地川、大栗川が流れています。

護岸整備:(ごがんせいび)

浅川流域は山地が多く、高低差が大きいため、河床勾配は1/100~1/230と急流になっています。また、川幅も狭く市街地では家屋が河川に接近しています。そのため、湯殿川合流から上流の国土交通省直轄(南浅川合流点まで)区間の浅川は、多摩川水系河川整備計画によって特殊防護区間と定められ、本堤防と低水護岸による二重防護の整備が行われています。

この直轄区間以外の河川は、ほとんどを東京都がその上流については八王子市が管轄して河川整備が行われています。

河川水質:(かせんすいしつ)

八王子を流れる河川の水質は、平成10年度では東京都河川水質ワースト10に5河川(川口川ワースト1、城山川ワースト2、南浅川ワースト3、湯殿川ワースト5、浅川ワースト7)も入るほどで、多摩川の汚れは浅川のため等と言われるほどでした。しかし、近年八王子市の下水道整備が急速に行われた結果、水質が向上し、市街地でも鮎の遡上やカジカ等長年姿を消していた魚も見られるようになって来ました。

河川水量:(かせんすいりょう)

地下水が減少し、かつて「湧き水は町をめぐり・・・」(都立南多摩高校校歌)と歌われた八王子市も湧水が減少し、河川の水量は天候に大きく左右されています。魚の生息にも水質の保全のためにも水量の確保が重要な課題となっています。

多摩川水系河川整備計画 [直轄管理区間編] 平成13年3月

国土交通省 関東地方整備局 京浜河川事務所

浅川圏域河川整備計画 平成18年6月 東京都建設局

八王子市水循環計画 平成22年3月 八王子市環境部水循環室

八王子市生活排水対策推進計画 子供たちでにぎわうふるさとの清流をめざして 八王子市 平成9年3月

浅川生きもの研究会 みんなの浅川 豊かな川を目指して 2000年1月31日

小倉紀雄 市民環境科学への招待 水環境を守るために 裳華房 2003年7月15日

(浅川流域市民フォーラム事務局 諏訪祥子)



## 目次

- 自然環境
- 歴史
- 史跡・遺跡
- 人物
- スポーツ
- 農業・林業
- 執筆者一覧
- リンク集

## 歴史

### 八王子の古代（はちおうじのこだい）

(1)地域社会の形成 古代、八王子域を含む東国、武蔵の様相を語る最古の史料は有名な『魏志』倭人伝である。卑弥呼・邪馬台国で注目を浴びる史料であるが、注目したいのは「女王国の東、海を渡ること千余里、また国あり。皆倭種。」[…]

### 八王子の中世（はちおうじのちゆうせい）

平安時代末期の1160年(平治2)に伊豆国へ配流された清和源氏の嫡流源頼朝が、1180年(治承4)8月17日、北条時政・安達盛長・大庭景義・土肥実平・佐々木定綱らの助力を得て挙兵し、平氏一門の山木兼隆を滅ぼした。この頼朝[…]

### 八王子の近現代(はちおうじのきんげんだい)

(1)自由民権運動と東京府移管 江戸時代において、八王子地域は「八王子宿」や「横山」等の名称で呼ばれていたが、1871年の廃藩置県によって他の多摩地域と共に神奈川県に編入された。さらに1878年には郡区町村編制法施行[…]



## 目次

- 自然環境
- 歴史
- 史跡・遺跡
- 人物
- スポーツ
- 農業・林業
- 執筆者一覧
- リンク集

## 八王子の古代（はちおうじのこだい）

### （1）地域社会の形成

古代、八王子域を含む東国、武蔵の様相を語る最古の史料は有名な『魏志』倭人伝である。卑弥呼・邪馬台国で注目を浴びる史料であるが、注目したいのは「女王国の東、海を渡ること千余里、また国あり。皆倭種。」という情報である。邪馬台国の所在地に関しては九州、畿内説があるが、どちらにしても「また国あり、皆倭種」に八王子域を含む武蔵の様相を見出すことはできるであろう。倭人伝の「国」は「国邑」とあるところから「邑」、すなわち集落を複数配下に置く政治体であったと考えられる。

その「国」は「大人」とよばれる首長を頂点とする支配層と「下戸」という一般民衆という二つの身分からなりたっていた。方形周溝墓で有名な宇津木向原遺跡の竪穴建物址からは青銅鏡一面が出土しており、周溝墓は弥生時代の八王子地域の「大人」の一族の奥津城と考えられる。

長房町の中郷遺跡の住居址からは小銅鐸が発見されており、「大人」を中心とする青銅器を用いる集落祭祀が行われていたことがうかがうことができる。

この東国が歴史の表舞台に登場してくるのは4世紀に入ってからである。『宋書』倭国伝に載る有名な「倭王武の上表文」は東国が歴史に組み込まれていく様子をとらえている。倭王武、即ち記紀『古事記』・『日本書紀』の雄略天皇は祖先が「東の毛人五十五国」、「西の衆夷六十六国」、そして「海の北の九十五国」を平定したと奏上しており、前半の国内統一が4世紀中頃に展開したことがうかがえる。それが記紀のヤマトタケルの東征伝承として語られていると考えられる。

『日本書紀』という国家の基幹に係わる史書、その安閑天皇元年条に武蔵国造職の継承紛争が取り上げられている。武蔵国造の職をめぐって笠原直使主と同族小杵が対立し、使主は朝廷と小杵は上毛野小熊と手を結び、抗争するという大和朝廷の根幹を揺るがす事件であった。結果、大和朝廷の後援のもと使主が勝利し武蔵地域は安定したが、使主は朝廷に屯倉4箇所を献上し、より強く王権支配のもとに組み込まれていった。

屯倉は「横渟・橘花・多氷・倉櫛」の四地域に置かれたが、その中、「横渟」は多摩の横山につながる横野と考えられ、八王子市域は以後、大和朝廷の直接的な支配を受けるという特性を有することになった。

八王子市大谷町の丘陵上の北大谷古墳は直径30mを計る円墳（近年、上円下方墳との指摘がなだれている）であり、確認できる八王子域最大の古墳であり、大和朝廷と結んだ地域首長の墳墓であろう。尚、石室が朝鮮の石室を模した特色を有し、被葬者が渡来系の人物との指摘もなされている。

### （2）進む開発と集落、人びとの生活

戦後1960年代以降、急激な人口増、流入により八王子における宅地造成が進展し、緑豊かな丘陵の開発が進むなか、剥がされた地中から大きな集落遺跡が姿を現した。丘陵上は古代以来二度目の開発であった。浅川支流の川口川流域に中田遺跡、南浅川左岸の船田遺跡、湯殿川左岸の櫛田遺跡などに八世紀の竪穴建物からなる集落遺跡が展開していたことが判明している。

八王子から遠く離れた奈良の都、そこでは八世紀初頭に大宝律令が制定され、国府・郡家を通して八王子域も「武蔵国多摩郡川口里」としてその施行下に組み込まれた。「里」は当時の民「戸」、50戸で編成され、およそ1200人前後の人びとで構成されていた。「川口里」は後に「川口郷」となるが、その下に小「里」が3つ設けられた。中田・船田・櫛田はそれぞれ3「里」の一部を構成していたのであろう。「川口」の名は今も「川口」川として伝えられており、その地域が古代の八王子の中心であることを示すとともに八王子の古代の様相を物語る貴重な財産でもある。

「川口里」、後の「川口郷」の中心、それは「川口郷長」の居宅、もしくは「川口郷家」であったが、「川口」の「口」に注目するならば、浅川・川口川の合流域を想定すべきであろう。

律令の規定、いわゆる班田収授法によれば六歳以上の男女にはそれぞれ男は2段、女は1段120歩の口分田が給付されたという。そして人びとはいわゆる租庸調の負担を課せられたのである。しかし、それだけの水田の面積を八王子域の河川流域に求めるとも確保すること不可能であり規定どおりの班給はなかったと思われる。法の規定はあくまで班給の上限数値であったことに気が付くべきであろう。

当然、人びとの生業は地域の実態にあった形でなされていたと考えられる。古代の地域様相は不明であるが、江戸幕府が編纂した『新編武蔵国風土記稿』（文政4年・1826年）の情報は参考になる。浅川の清流は名産の鮎を生み出し、高尾山を頂点として八王子北部の青垣を成す山々の麓、原宿・長房・山入・川村・小津・犬目・宮下の村々は「猪・鹿・狸・雉・兔の類多し」の世界であり、櫛田村も同様であった。

また大澤・上櫛田・片倉・下長房・山入・小津・石川・川口では養蚕・織物を、草木では「檜・櫛・川桐・桑・樅・葛・藤等」が「村民山林の利を専」としていたという。また「炭を焼き、薪をとり」という地域もあった。

養蚕・炭焼は古代にさかのぼる生業であり、四季折々の自然の恵みを巧みに組み込み、国家の負担に応え、そして自らの生活を維持していたと考えられる。

天平13(741)年、聖武天皇の発願に始まった国分寺創建は武蔵国の大事業であり、国分寺寺地となった多摩郡はその事業の為に翻弄されたであろう。八王子域には国分寺の瓦の生産を行なった南多摩窯址、そして谷野町の谷野瓦窯址が確認されている。谷野瓦窯址からは「川口」「矢」の記名瓦が出土している。「川口」は川口郷を、「矢」は「谷慈」「谷地」、または川口郷の下の「矢(谷)野」里の可能性もあるが、明らかに八王子の民が瓦生産、あるいは運搬にかり出されていたことがわかる。また地域社会が育ててきた林業、また炭焼きの経験、技術が瓦生産にも活かされたのであろう。

### (3) 中世への礎、蹄の音

承和2年、川口郷の人びとは東の空に赤い炎が上るのをみた。古代国家が編纂した六国史の4番目『続日本後紀』によれば承和2(835)年、聖武天皇の夢、そして武蔵国の民の労と願いが込められた国分寺・七重塔が落雷の為に焼け崩れ落ちたのである。すでに古代国家は再建する力を喪失し、「鎮護国家」の象徴の瓦解と喪失は人びとを不安に陥れたと思われる。しかし、幸いなことに承和12年武蔵国男衾郡の前の大領壬生吉志福正が国分寺再建を願い出るという吉祥記事が躍るのである。北武蔵の前の大領が個人の財力で七重塔を再建するという国家にとって朗報であるが、それは地域社会には新しい時代に担い手が力をつけていたことを示す事例であった。

古代国家は広大な山野に恵まれる国々に注目し牧の設置を行なった。『延喜式』によれば武蔵国には石川・由比・小川・立野の官牧、勅旨牧が置かれた。その4牧の所在地に関しては諸説あるが、石川は八王子市石川町、由比は式分方町に比定されている。由比に関しては伝承もあり、「由比牧址」の石碑が建てられている。武蔵国にはその後、さらに小野・秩父牧が設けられるが、この牧の管理者からは小野諸興が姿を現す。八王子域の中世武士団の横山党の祖とされるのが諸興である。

(元 公立女子第二中学高等学校校長・島根県古代文化センター客員研究員 関 和彦)

## 目次

- 自然環境
- 歴史
- 史跡・遺跡
- 人物
- スポーツ
- 農業・林業
- 執筆者一覧
- リンク集

## 八王子の中世（はちおうじのちゆうせい）

平安時代末期の1160年（平治2）に伊豆国へ配流された清和源氏の嫡流源頼朝が、1180年（治承4）8月17日、北条時政・安達盛長・大庭景義・土肥実平・佐々木定綱らの助力を得て挙兵し、平氏一門の山木兼隆を滅ぼした。この頼朝の挙兵により、時代は中世へと大きく動き始める。

## (1) 鎌倉時代の八王子

頼朝が挙兵した頃の八王子には、元横山町付近を本拠とする武士団として横山氏がいた。横山氏は平安時代末期以来、南武蔵・北相模一帯を本拠とする中小武士団の結合体である横山党の中心であった。挙兵の当初より、横山党の一員である義勝房成尋（ぎしょうぼうじょうじん）が頼朝方に加わっていたことが、鎌倉幕府が編纂した歴史書『吾妻鏡（あずまかがみ）』同年8月20日条の記事によって確認できる。

頼朝は石橋山の戦いで敗れたものの、房総半島の安房国（あわのくに）に渡海して再起し、南関東の大多数の武士団を味方に引き入れて、同年10月6日、鎌倉に入った。横山党の武士たちもこの過程で頼朝の支配下に入り、以後、平氏や木曾義仲との合戦に源氏軍として活躍し、鎌倉幕府の御家人として新たな所領を与えられ発展した。

頼朝の死後、3代將軍実朝の1213年（建暦3）、執権北条義時らの相模支配に抗して侍所別当和田義盛が挙兵すると、和田氏と姻戚関係のあった横山党の横山氏は和田方として参戦し、幕府軍に敗れて滅亡した。合戦後、横山庄（よこやまのしょう）は、京下りの貴族で頼朝以来の功臣である大江広元に与えられた。広元の子孫のうち、嫡子親広（ちかひろ）は1221年（承久3）に起きた承久の乱で後鳥羽上皇に属して滅び、広元死後、一門を代表していた季光（すえみつ）も、1247年（宝治1）の宝治合戦で三浦氏の本宗家に味方して滅びたため、長井氏を名乗った第二子時広の流れが横山庄を領有することになった。

横山庄の庄域には、横山氏が独自に開発して私領としていた地域だけでなく、平安時代から存続する摂関家領（せつかんけりょう）船木田庄（ふなぎだのしょう）と重層する地域があることが指摘されている。横山氏も長井氏も幕府から地頭に任命されるとともに、摂関家からは船木田庄の下司（げし・げす）に任命されていた。とはいえ、地頭請所（じとうけしよ）であったため、摂関家は得分としての年貢を受け取るだけであった。また、船木田庄内には由比本郷という郷村があったが、ここは頼朝期の功臣天野遠景（あまのとおかげ）を始祖とする天野氏に与えられていた。鎌倉末期には、一族内で相論が繰り返されたものの、天野氏の支配がくずれずれることはなかった。

## (2) 室町時代の八王子

1333年（元弘3）、鎌倉幕府が滅亡し、時代は建武の新政、そして南北朝の動乱へと移行する。この激動の中にあつて、横山庄の領主長井氏は鎌倉幕府の評定衆（ひょうじょうしゅう）を務めていた経験と実務能力を買われ、建武政権・室町幕府で重用された。しかし、動乱の進展により長井氏も現地に土着して支配力を維持する必要性に迫られ、南北朝末期には片倉の地に片倉城を、その西隣の山田には広園寺（こうおんじ）を開基した。

また、船木田庄は南北朝の初期に東福寺に寄進された。地頭請所である点は鎌倉期と変わらなかったが、東福寺から給主（きゅうしゅ）が派遣され、地頭と庄務に関する折衝を行うようになった。しかし、南北朝中・後期になると、守護や守護代の権力が浸透するようになり、東福寺の荘園支配は行き詰っていった。天野氏による由比本郷の支配も、南北朝期が終わって室町期に入ると、大きく後退した。

15世紀の前半、足利持氏（あしかがもちうじ）が鎌倉公方（かまくらくぼう）の地位につくと、京都の幕府との関係が不安定になり、関東で次々と動乱が起こった。1416年（応永23）、前関東管領（さきのかんとうかんれい）犬懸上杉氏憲（いぬかけうへすずぎのり）が、持氏と関東管領山内上杉憲基（やまのうらうへすずぎのりもと）に対して起こした上杉禪秀の乱、幕府に反抗的姿勢をみせていた持氏を、1438年（永享10）から翌年にかけて6代將軍足利義教（あしかがよしのり）が攻めて自害させた永享の乱、1440年（永享12）下総の結城氏朝（ゆうきうじとも）が持氏の遺児を擁して起こした結城合戦などである。こうしたなか、鎌倉公方や関東管領のもとで重要な役割を果たしたのが、武蔵国の守護代を歴任していた大石氏であった。その支配領域の中核は由比付近にあったとされ、由比氏・河口氏などの地侍を掌握した大石氏の勢力が増大するのにもない、船木田庄は荘園の実体を失った。

1441年（嘉吉1）、將軍義教が播磨国の守護赤松満祐（あかまつみつすけ）によって殺害される嘉吉の乱が起き、將軍の権威が失墜する一方、関東でも混迷が続いた。持氏の子成氏（しげうじ）が鎌倉公方に就任すると、関東管領の上杉氏や執事の長尾氏・太田氏と対立し、1454年（享徳3）、享徳の乱が起きた。幕府は成氏に対抗するため足利政知（あしかがまさとも）を伊豆へ派遣した。その結果、古河公方（こがくぼう）成氏と堀越公方（ほりごえくぼう）政知が並び立つ状況が生まれ、混迷の度は深まった。

### (3) 戦国時代の八王子

あしかけ11年にわたる応仁・文明の乱を契機に戦国時代に入ると、関東の情勢も大きく変化した。その中心は、駿河から伊豆・相模に進出してきた伊勢宗瑞(北条早雲)を祖とする戦国大名の後北条氏(ごほうじょうし、鎌倉幕府の執権北条氏と区別するため、後北条氏と呼ばれる)である。2代目氏綱は武蔵国に進出し、16世紀の半ば、3代目氏康の頃には関東における後北条氏の勢力は確固たるものになった。

一方、大石氏は16世紀に入ると、大石定重が滝山城を築いて本城としたが、その子道俊は氏康に臣従し、氏康の子氏照を養子に迎えて家督を譲った。氏照は1559年(永禄2)頃には滝山城に入ったとされる。その後、氏照は城郭の大改修に着手し、滝山城は後北条氏の本城小田原城の支城として南武蔵支配の重要な拠点となった。国指定史跡である高月町の城跡遺構は、この改修後の姿を現在に伝えるものである。

しかし、1569年(永禄12)、甲斐の武田信玄の攻撃を受け、武田氏滅亡後は、甲斐国を領国とした織田信長や徳川家康の脅威にさらされ、甲武国境の防衛が急務となった。そこで、氏照は1582年(天正10)以降、遅くとも1587年(天正15)までには、甲武国境に位置する深沢山に八王子城を築き、滝山城からここに移った。元八王子町の城跡遺構は、現在、国指定史跡となっている。その八王子城も、1590年(天正18)、豊臣秀吉の関東侵攻により、前田利家・上杉景勝の攻撃を受けて落城した。やがて小田原城も開城。氏政・氏照兄弟が自害して戦国大名後北条氏は滅亡し、八王子の中世も終わりを告げた。

(創価大学文学部教授 坂井孝一)



## 目次

- 自然環境
- 歴史
- 史跡・遺跡
- 人物
- スポーツ
- 農業・林業
- 執筆者一覧
- リンク集

## 八王子の近現代(はちおうじのきんげんだい)

## (1)自由民権運動と東京府移管

江戸時代において、八王子地域は「八王子宿」や「横山」等の名称で呼ばれていたが、1871年の廃藩置県によって他の多摩地域と共に神奈川県に編入された。さらに1878年には郡区町村編制法施行によって南多摩郡となり、郡役所が横山宿に置かれた。この処置に対し、東京府が水源林や玉川上水などの水源確保の関係から、特に西・北多摩郡の東京府への移管を希望すると、神奈川県側からは南多摩郡も含めた移管が提案された。これは、県庁側が県会で勢力を誇っていた三多摩の自由党に手を焼いていたからである。

当時、全国規模で自由民権運動が盛り上がっていたが、1881年の明治14年政変時では首都に集まった全国多数の民権家の力を背景に1890年に国会を開設することが決定され、また板垣退助(いたがき たいすけ、1837年～1919年)を総理とする自由党が結成された。このようななか、八王子でも地元民が民権結社を設立し多数の参加者を集めていた。しかし、いわゆる松方デフレが行われ、さらに世界的恐慌がおこると八王子の農家も大きな打撃を受け、いわゆる激化事件が発生した。1884年8月八王子南方の御殿峠に数千人の負債農民が結集、北部一帯や神奈川の困民党もこれに呼応し、中心部の銀行や金貸会社に向けて押しかけようという動きを見せた。この事件で、21か村224名が警察署に逮捕されたが、多くは説得に応じる形で決着を見た。

さて、このように民権運動が盛んな地域だけに、東京府移管問題でも特に南・西多摩郡では、自由党の抵抗運動となったり移管反対派首長の一斉辞職騒動となった。しかし結局は、1893年に三多摩は東京府へ移管された。なお、1889年の町村制施行に伴い、「八王子町」が正式呼称となった。また、1917年には東京府内では東京市に次いで2番目に市制を施行し八王子市となったことで、多摩地域の中心都市という特徴を強く持つことになった。

## (2)交通の要所

日米修好通商条約で横浜が開港されると、諸外国との貿易が活発となった。中でも生糸輸出はその中心であったが、その多くは従来から地場産業である八王子織物に使用するために八王子一帯で生産されていたもののほか、東北地方から甲信地方にかけての広大な養蚕地帯から産出された生糸が一旦八王子に集積され、浜街道をはじめとするいくつかの主要街道を通過して横浜まで輸送された。また生糸以外にも、八王子近郊の狭山丘陵付近で生産される狭山茶を横浜へ輸送するのに同じ道が使われたこともあった。これら交易の伸長に伴い、八王子は物資の集積地としてますます重要性を強めた。このため1889年には甲武鉄道(現在の中央本線)新宿―八王子間が開通、1903年には八王子―甲府間が開通し、物流拠点という性格が一層強まったのである。ただし、鉄道開通の影響で街道は1893年頃を境に徐々に衰退していった。これらの街道のうち浜街道には1950年に橋本義夫(はしもと よしお、1902年～1985年)により「絹の道」という碑が建立され、現在その一部が史跡および歴史の道百選に指定されている。

また、1926年の大正天皇崩御をうけ、翌年に横山村・浅川村および元八王子御料地が陵墓地に選定され、大正天皇陵は多摩御陵と定められた。多摩御陵は東日本初の天皇陵である。これに伴い近隣の交通網が整備され、甲州街道の拡幅や、会社合併による京王電鉄新宿―八王子間の直通運転開始、また1931年には京王電鉄御陵線が開通し、多くの参拝者を運んだ(現在廃線)。

## (3)八王子の産業

八王子の代表的な地場産業である織物は元来農家の副業であり、恩方・川口・横山の三村が織物産業の中核となっており、八王子町周縁部を産業基盤としていた。1897年4月の八王子大火で市内の60%以上が焼失したことも一因となり、明治末期から次第に力織機の導入が増えていくが、それでもかなりの期間手織が大きな割合を占めていた。大正末期から昭和にかけて力織機が普及し生産量も増加するが、既に洋装が浸透していたため八王子織物は男物から女物へと転換していく。しかし、昭和初期の不況や、日中戦争に伴う戦時体制の影響を免れず、織物産業は全体的に衰退の方向へ向かっていった。太平洋戦争に伴い織物工場は横河電機などの軍需工場の下請けへと転用が進んだが、同時に工員の徴兵や動員、力織機の供出や戦時統制令による資材制限などによって、休業もしくは廃業する工場も現れた。

## (4)戦災と復興

八王子は、太平洋戦争末期には東京都市部からの疎開先でもあったが、多摩地域の中心都市であることや鉄道網の要衝であること、繊維工場を転用した軍需工場の存在により、米軍の重要な攻撃目標とされた。前日に爆撃を予告するビラが撒かれたほかラジオによる予告も行われ、それを受けて消防自動車の配備など火災への対応も用意された。1945年8月2日午後0時すぎ、169機のB-29により大型弾を含む約67万発の焼夷弾が周辺部を起点として市内全域に投下され、攻撃は午前2時30分に終息した。爆撃によって市街地の約80%、戸数にして1万3000戸以上が焼失し、450名余が死亡、重軽傷者は2000名以上であった。また、5日昼には中央本線湯ノ花(いのはな)トンネルにおいて、長野方面に向かう疎開列車がP-51の機銃掃射を受け出口付近で炎上し、死者52名、重軽傷者133名という犠牲を出した。戦争にまつわるこの二つの戦災の記憶は引き継がれ、現在でも慰霊祭が行われている。

1946年、八王子は戦災都市に指定され復興計画が策定された。1947年10月には、戦災を免れた戸数を加えると約94%が復旧するなど急速に戦災復興が進んだ。1955年に横山、元八王子、恩方、加住、由井、川口の各村を編入、1959年に浅川町、1964年に由木村を編入しほぼ現在の八王子市域となった。

戦災復興に伴い繊維産業も徐々に復活、1955年以降絹織物から毛織物への転換が進み、1974年には市内の工場のうち繊維関係は51%を占め、生産高は全国の60%を占めるまでになった。高度経済成長期の1960年、北八王子工業団地が造成され、それ以降精密機械や電子機器の工場および関連工場が誘致されるようになった。高度経済成長下で産業構造の転換も発生し、八王子では機械工業に加え化学工業や食品工業が伸長し、伝統産業であった織物産業は徐々に廃業が進んでいく。

#### (5)都市としての変貌

1964年には東京オリンピックが開かれ、八王子は自転車競技の会場となった。八王子は1958年に建設省から市街地開発地域の指定を受け、東京の衛星都市としての性格を強めていたが、東京オリンピックを契機に八王子市内では宅地造成が急速に進行し、衛星都市・ベッドタウンとしての八王子という側面が形成されていく。オリンピックに伴う多摩ニュータウンや、京王高尾線開業に伴う京王めじろ台を代表に、急速な宅地造成とそれに伴う人口増加が長く続き、1983年には40万人を突破した。一方で明治の森高尾国定公園をはじめとした自然公園が市周縁部に多く存在しており、「都心に近く緑の多い町」としての八王子の価値は高まっている。2007年以降高尾山が有名ガイドで最高評価を得ていることで、一段とその重要性が高まった。

1985年ごろ、都心への一極集中を是正しようという国の方針もあり、八王子は多摩圏の中心を担う業務核都市として学園都市形成の方向に進んできたが、八王子の学園都市としての第一歩は1963年の工学院大学誘致であった。以降、市の周辺部を中心として大学の開校が相次ぎ、現在市域には23の大学・短期大学・高等専門学校がある。近年は都心回帰の影響を受ける大学も出始めている。周縁部に位置し地理的に交流の難しい各大学をどのように連携発展させていくか、今後の課題である。

#### 参考文献

八王子市史編纂委員会編『八王子市史 上巻』八王子市、1963年。

八王子市史編纂委員会編『八王子市史 下巻』八王子市、1967年。

奥住喜重『米軍新資料 八王子空襲の記録』100万人の20世紀シリーズ(2)、揺籃社、2001年。

八王子市郷土資料館編『八王子の空襲と戦災の記録』(総説編)、八王子市教育委員会、1985年。

峰岸純夫監修『図説 八王子・日野の歴史』郷土出版社、2007年。

樋口豊治『市民のための八王子の歴史』有峰書店新社、1998年。

(創価大学文学部教授 季武嘉也)



## 目次

- 自然環境
- 歴史
- 史跡・遺跡
- 人物
- スポーツ
- 農業・林業
- 執筆者一覧
- リンク集

## 史跡・遺跡

### 片倉城（かたくらじょう）

南北を兵衛川・湯殿川によって挟まれた小比企丘陵の東端、現在の八王子市片倉町に築かれた中世の城館で、その遺構は都指定史跡となっている。城域は東西約250メートル、南北約200メートルで、標高は143メートルである。空堀(か[...])

### 八王子城（はちおうじじょう）

(1)八王子城築城 八王子市元八王子町・下恩方町・西寺方町にあった戦国時代末期の山城である。戦国時代の関東は、小田原に本拠を置く戦国大名北条氏が支配をしていた。北条家4代当主北条氏政の弟に当たる北条氏照により、15[...]

### 滝山城（たきやまじょう）

(1)滝山城の歴史 室町時代の関東は、鎌倉府の長官(鎌倉公方)と、その補佐をしていた関東管領が統治していたが、早くから対立抗争が激化しており、いち早く戦国の様相を呈していた。鎌倉公方は、堀越公方と古河公方とに分裂、関東[...]

### 小仏関所（こぼとけせきしよ）

武蔵国多摩郡の小仏(八王子市裏高尾町)に設置された関所。当初は武蔵国と相模国(神奈川県相模原市)の国境にある小仏峠に設置されたので、この名がある。その後、関所は峠の東麓に近い駒木野(八王子市裏高尾町、峠からは直線距離で4[...])





## 目次

- 自然環境
- 歴史
- 史跡・遺跡
- 人物
- スポーツ
- 農業・林業
- 執筆者一覧
- リンク集

## 片倉城（かたくらじょう）

南北を兵衛川・湯殿川によって挟まれた小比企丘陵の東端、現在の八王子市片倉町に築かれた中世の城館で、その遺構は都指定史跡となっている。城域は東西約250メートル、南北約200メートルで、標高は143メートルである。空堀（からぼり）で区切られた曲輪（くるわ）が東西にあり、主郭と考えられる東側の曲輪は東西約50メートル、南北約60メートルの広さを持つ。ただし、西側の曲輪も主郭の2倍以上の大きさがある。歴史的にはまだまだ不明な点の多い城である。

### (1) 築城前の片倉

片倉城を初めて築いたのは、鎌倉幕府の政所別当大江広元の第二子長井時広の子孫であったとされる。3代将軍源実朝の1213年（建暦3）5月、和田合戦で和田義盛に加勢した横山党の横山時兼が滅ぶと、広元は合戦の恩賞として片倉の地を含む横山庄を拝領した。広元の死後、次男時広は武蔵野国長井庄を本拠として長井氏を称したが、その子孫は代々、鎌倉幕府の評定衆（ひょうじょうしゅう）として活躍し、片倉の地を領有し続けた。

鎌倉幕府が滅亡し、建武の新政・南北朝動乱の時代になっても、長井氏はその実務能力を活かして建武政権や室町幕府で重きをなした。時広の5代目の子孫長井広秀は、足利尊氏の側近として各地を転戦し、広秀の従兄弟にあたる時春は鎌倉公方（かまくらくぼう）足利基氏（あしかがもとうじ）の側近として関東支配に協力した。また、実名（じつみょう）は伝わらないものの、法名（ほうみょう）を道広（どうこう）と称した人物も、広秀や時春の後、鎌倉公方の評定衆頭人（ひょうじょうしゅうとうにん）となっている。

### (2) 片倉城築城と山田広園寺の創建

南北朝の動乱が進展するなか、在地性を強化する必要が生じた長井氏は、南北朝末期には横山一帯に土着して在地土豪化した。そして、片倉の地に中世城館としての片倉城を築き、その西隣の山田に広園寺（こうおんじ）を創建した。

『広園開山行録』には、「康応二年（1390）二月二十一日、武州横山に赴き、広園禅院を鼎建す、壇越長井道広（もとは漢文、便宜上、書き下し文に改めた）」とあり、広園寺の創建は南北朝合一がなる少し前の時期であったことがわかる。また、長井道広が開基であったことも判明する。この道広を広秀の法名とみなす説もあるが、広秀の法名は「道昇」であったとする史料も残っているうえ、足利尊氏の側近として活躍した広秀がこの時期まで存命していたかどうかは疑わしく、むしろ広秀・時春の一世代下の人物と考えるべきであろう。ともあれ南北朝末期に、長井道広なる人物が広園寺の創建、片倉城の築城を行い、在地土豪化する道を探っていたことは確かである。

### (3) 戦国時代の片倉城

広園寺梵鐘の1468年（応仁2）の改鑄銘には「大檀那大江朝臣広房」という名がみえることから、長井氏はこの頃までは片倉の地にある程度の影響力を残していたことがわかる。とはいえ、15世紀中ごろには、武蔵国守護代を歴任していた大石氏が、旧船木田庄内の由比本郷を拠点にこの地域一帯を支配下に入れていたので、大江広元の次男時広を祖とする名門長井氏も、かつての勢力は失っていたと考えられる。

大石氏は、1521年（大永1）、定重の代に滝山城を築いて本城とした。16世紀の半ば、小田原の後北条氏（ごほうじょうし）が大石氏を服属させ、北条氏照（ほうじょうじてる）が滝山城に入ってここを本城とすると、片倉城は滝山城の支城となり、後北条氏の南武蔵支配の一翼を担うことになった。しかし、1590年（天正18）、豊臣秀吉の関東侵攻によって後北条氏が滅亡すると、片倉城は廃城となった。

（創価大学文学部教授 坂井孝一）



## 目次

- 自然環境
- 歴史
- 史跡・遺跡
- 人物
- スポーツ
- 農業・林業
- 執筆者一覧
- リンク集

## 八王子城（はちおうじじょう）

### (1)八王子城築城

八王子市元八王子町・下恩方町・西寺方町にあった戦国時代末期の山城である。

戦国時代の関東は、小田原に本拠を置く戦国大名北条氏が支配をしていた。北条家4代当主北条氏政の弟に当たる北条氏照により、1577、78(天正5、6)年頃、深沢山(現在の城山)一帯に築城が開始された。その後、織田信長の安土城を参考に改修工事がなされ、1587(天正15)年3月頃から北条氏照はここを本拠とした。深沢山山頂に「八王子社」があり八王子城と名付けられた。

●「八王子社」;日吉山王権現もしくは牛頭天王(ござてんのう)の眷属(一族、従者)である8人の王子を祀る。

この時期、豊臣秀吉は、全国統一の事業を展開しており、中国(毛利輝元)・四国(長宗我部元親)を既に平定していた。氏照が八王子城に本拠を置いた1587年5月に秀吉は、九州の島津義久を降伏させ、西日本の支配を確立した。秀吉の天下統一に残されたのは、関東(北条氏政氏直父子)と東北(伊達政宗ら)だけとなった。

二年後の1589年12月、秀吉は諸大名に「北条氏政・氏直追討」の陣触れを発し、翌1590(天正18)年から22万人以上の軍勢を擁して北条氏攻撃を開始した。「東海道北上軍」の徳川家康・織田信雄ら17万人以上と「水軍」の長宗我部元親ら1万人は小田原城を包囲した。

一方、前田利家・上杉景勝・真田昌幸らに率いられた「北陸支軍」3万5千人は関東各地の北条支城を落とし、6月23日未明八王子城の攻撃を開始した。当時城主・氏照は小田原本城に籠城しており、八王子城に残るのは一部の将兵、農兵、鍛冶、番匠(建築職人)、修験、僧侶らと、婦女子など3000人余りだけであった。城はわずか半日で落ち、城代横地監物ら将兵1000人以上が討死した。氏照正室や婦女子は自刃、或いは御主殿の滝に投身して果てた。為に、滝は三日三晩血に染まったという。

そして7月5日小田原城も開城、秀吉の天下統一は完成した(北条攻めの最中に、奥羽伊達氏も降伏している)。八王子城主氏照は、兄氏政(北条氏4代当主)と共に、切腹を命じられる。

滅亡した北条氏の旧領を与えられた徳川家康は、8月1日に江戸に入り、「徳川時代300年」の基礎固めをはじめた。

八王子城落城は、「戦国時代の終り」と「江戸時代の始まり」を告げる「歴史的な事件」であった。また、八王子市の発祥にもつながっていく。甲州口の整備として、八王子城下は6キロ南に移動されて、「八王子宿」が建設された(現在の八王子市街中心地。八王子城下一帯は「元八王子」と呼称される)。

●1990(平成2)年は、「八王子開市400年」とされイベントが企画された。

### (2)八王子城の構造

石垣の虎口など当時の関東では、数少ない石垣の城であった。さらに8m幅の大手道などを備え、外郭防衛線約11km・面積約400haの戦国時代末期最大規模の山城であった。

北に案下川(北浅川)、南に小仏川を擁した深沢山の地形を巧みに生かしたな作りである。山頂は本丸、松木・小宮曲輪など何段もの山上曲輪群を配して要害とし、城山川沿いの山麓に居館地区(領主日常生活の場所「御主殿」など)と城下町(武家屋敷、職人居住区、商業地区など)を作った。山上曲輪群と山麓居館を結ぶ山腹部分にも、「柵門台」などの要所をいくつも設け、敵の攻撃に備えている。

### (3)史跡 八王子城

①1951(昭和26)年に国史跡に指定された。1977(昭和52)年から八王子市教育委員会の発掘調査が開始された。八王子開市400年にあたる1990(平成2)年からは「居館地区」の発掘調査が行われ、「御主殿地跡」からは「明の染付磁器皿」「宋代の青磁」などが発見された。

②『日本百名城』(東京都からは「江戸城」と「八王子城」)や『日本五大山岳城』に挙げられ、名城とされる。

#### ③遺構

##### (ア)石垣、曲輪、御主殿跡

●曲輪;防御陣地・建造物を建てる敷地・兵の駐屯施設。「郭」とも書く。近世では「丸」ともいう。

##### (イ)再建造物;石垣・虎口・曳橋(引き橋)

●虎口;城郭の出入りに当たる場所。

●曳橋(引き橋);戦闘時には架橋を「曳いて(引いて)」撤去する。

#### ④交通アクセス

JR中央線高尾駅北口1番バス停より、西東京バス「高尾の森わくわくビレッジ」「宝生寺団地」「恩方車庫」「大久保」「陣馬高原下」「グリーンタウン高尾」「美山町」行きで、バス停「霊園前」下車、徒歩約15分。  
拝島駅からもアクセスできる。

#### 参考文献

鈴木良一『後北条氏』有隣堂書店、1988年。

長谷章久『東京の中の江戸』角川書店、1984年。

峰岸純夫 木村茂光編『史料と遺跡が語る中世の東京』新日本出版社、1996年。

色川大吉編『多摩の五千年 市民の歴史発掘』平凡社、1970年。

峰岸純夫 梶國男 近藤創編『みる きく あるく八王子城』揺籃社ブックレット4、2001年。

梶 國男 吉山 寛『高尾山と八王子城』揺籃社ブックレット8、2009年。

八王子市教育委員会作成『八王子城跡パンフレット』1990.1991年。

(工学院大学教職課程非常勤講師 幡野龍一)





## 目次

- 自然環境
- 歴史
- 史跡・遺跡
- 人物
- スポーツ
- 農業・林業
- 執筆者一覧
- リンク集

## 滝山城（たきやまじょう）

### (1) 滝山城の歴史

室町時代の関東は、鎌倉府の長官（鎌倉公方）と、その補佐をしていた関東管領が統治していたが、早くから対立抗争が激化しており、いち早く戦国の様相を呈していた。鎌倉公方は、堀越公方と古河公方に分裂、関東管領職を世襲していた上杉氏も、山内上杉氏・扇谷上杉氏に分かれ、対立していた。更に、在地の武士団・国人領主たちも「国一揆」を結ぶなどして、それぞれの立場で戦いを展開しており、激しい争いが長く続いた。

滝山城は、1521年（永正18年）に、多摩地方の国人領主・大石定重により築かれた山城である。

大石氏は、戦国時代に多摩地域を中心に活躍していた武將で、出自は信濃国佐久郡大石郷とされ、木曾義仲の後裔とも称した。実在が確かめられるのは、大石信重以降の憲重・憲儀・房重・顕重・定重・定久の7代である。

大石信重は、1356（延文元）年に武蔵国入間・多摩両群に13郷を得て多摩に移住、二宮（現・あきる野市）の館を根拠とした。1384（至徳元）年には浄福寺城（八王子下恩方町）を築いた。関東管領山内上杉氏の有力家臣として「武蔵国目代職」を勤めた。

その後、大石顕重は高月城（八王子市高月町）築き本拠をここに移した〔1458（長禄2年）〕。

「武蔵国守護代」を勤め武蔵20余郡を掌握していた大石定重は、1521（永正18）年、滝山城（現・八王子市丹木町）を築城し本拠を移転した。

この頃、伊豆・相模に本拠を置いた戦国大名北条氏は、次第に勢力を関東全域に拡大してきた。古河公方、扇谷・山内の両上杉氏などとの戦闘が繰り返されてきた。

1546（天文15）年4月の河越城をめぐる戦いで、北条氏は山内憲政・扇谷朝定を撃退した（河越夜戦）。この戦いで、扇谷上杉氏は滅亡し、山内上杉氏は上野平井（藤岡市）に退いた。主家山内上杉家の没落に、大石氏は北条氏に屈服していった。大石定久は北条氏照を養子に迎え、定久は戸倉城（現・あきる野市）に退いた。1559（永禄2）年 北条氏照（19歳）は滝山城に入った。その支配は、八王子を中心に北は五日市・青梅・飯能・所沢、南は相模原・大和、そして横浜の一部を含む広大な地域であった。

1569（永禄12）年、小田原城攻撃に向かう武田信玄の軍勢が、小仏峠から侵入して、滝山城を攻めた。高尾山麓の甘里（とどり）（八王子市甘里古戦場）で敗退、滝山城三の丸まで陥落し、落城寸前まで追込まれたが、かろうじて攻略は免れた。滝山城の防御体制の不十分さを痛感した北条氏照は、より堅固な山城を目指し、八王子城を築いていく。1587（天正15）年3月頃 北条氏照は八王子城に入り、滝山城は廃城となる。

### (2) 史跡 滝山城

東京都八王子市丹木町にあった戦国時代の山城である。城は多摩川と秋川の合流点の加住丘陵にある。この丘陵は北西から南東に長く、多摩川に面する部分は40mほどの崖であり、この方面からの攻撃は不可能である。加住丘陵の複雑な谷津地形を巧みに利用した天然の要害で、随所に空堀が掘られ、大小30近い曲輪が機能的に配置されている。

●曲輪；防御陣地・建造物を建てる敷地・兵の駐屯施設。「郭」とも書く。近世では「丸」ともいう。

遺構は、本丸跡や中の丸跡などの土塁・堀（千畳敷跡空堀など）・井戸などである。

1951年に、国の史跡に指定され、現在は東京都立公園「滝山自然公園」として整備されている。

### (3) 交通アクセス

京王八王子駅・JR八王子駅北口から「戸吹（創価大正門・東京富士美術館経由）」行きバスで約25分、「滝山城址下」下車徒歩5分  
拝島駅からの便もある。

参考文献

鈴木良一『後北条氏』有隣堂書店、1988年。

長谷章久『東京の中の江戸』角川書店、1984年。

峰岸純夫 木村茂光編『史料と遺跡が語る中世の東京』新日本出版社、1996年。

色川大吉編『多摩の五千年 市民の歴史発掘』平凡社、1970年。

峰岸純夫 梶國男 近藤創編『みる きく あるく八王子城』揺籃社ブックレット4、2001年。

梶 國男 吉山 寛『高尾山と八王子城』揺籃社ブックレット8、2009年。

八王子市教育委員会作成『八王子城跡パンフレット』1990.1991年。

(工学院大学教職課程非常勤講師 幅野龍一)





## 目次

- 自然環境
- 歴史
- 史跡・遺跡
- 人物
- スポーツ
- 農業・林業
- 執筆者一覧
- リンク集

## 小仏関所（こぼとけせきしょ）

武蔵国多摩郡の小仏（八王子市裏高尾町）に設置された関所。当初は武蔵国と相模国（神奈川県相模原市）の国境にある小仏峠に設置されたので、この名がある。その後、関所は峠の東麓に近い駒木野（八王子市裏高尾町、峠からは直線距離で4km以上ある）に移設され、正式には「駒木野関所」となったが、一般には「小仏関所」と呼ばれている。

## (1) 設置・移設・廃止の各年代

関所の設置年代は不明だが、『新編武蔵風土記稿』や『武蔵名勝図会』には、「小仏谷関」という関所が1561年（永禄4年）には既に存在したという説を載せている。これは上杉謙信（長尾景虎）が小田原北条氏を攻めた時に発給した制札（発給は永禄4年2月）を根拠にしている。

それ以来、今日に至るまで200年近くの間、この制札が小仏関所を記した初見資料と考えられてきた。『国史大辞典』（吉川弘文館）の「小仏」の項目では、永禄4年の関所を「常置ではない」としながらも、関所の存在を認めている。

実は、この制札は「小仏谷関」なる関所が（たとえ一時的にしろ）存在したことを示すものではない。多少煩わしくなるのを承知で、制札の当該部分を以下に引用する。

「於武州小仏谷関越諸軍勢濫妨狼藉堅停止之 若有違犯之輩者不嫌甲乙人可処罪科状如件」

上杉方の軍勢が、敵地である武州・小仏谷において、その民衆に濫妨・狼藉をしてはならないとし、違反した者は誰でも処罰すると定めている。これは小仏谷の住民が、上杉方に金銭を支払って村の安全保障を手に入れたことを示している。

問題は、この制札の解釈である。従来は「小仏谷関」で区切り、「武州・小仏谷関において」と読んでいた。しかしこの解釈では矛盾する点が出てくる。まず第1に、北条氏の軍事施設である「小仏谷関」が上杉方に金銭を支払って濫妨・狼藉をしないように制札の発給を求めるだろうかという点である。安全保障の対象となるのは村々や寺社など、あくまでも非軍事的な集団・組織であって敵方の軍事施設ではない。

「小仏谷」で区切る説を補強する別の制札を紹介しよう。上杉軍の先陣として小田原攻めに参加した太田資正が発給したもので、発給された年月も永禄4年2月である。これには「於小仏谷当手軍勢甲乙人等濫妨狼藉之事（以下略）」とあって、やはり太田の軍勢が小仏谷で濫妨狼藉をはたらくことを禁じている。この制札の場合には区切る位置が明確で、「於小仏谷」と「当手軍勢」の間でしか区切れない。

第2の矛盾点は「軍勢」に「諸」がついていることである。つまり越後の軍勢だけではないということだろう。

「いやいや、上杉の中にも多くの家臣がいて、それぞれ部隊を率いているのだから諸軍勢としたのだ」という解釈もあると思う。しかし他の戦国大名が発給した制札を比べてみた場合、自分の配下にある軍勢を言う場合には単に「軍勢」とか「当手軍勢」という言葉が使われる。つまり複数の家臣がいくつかの部隊を率いていたとしても、それは「ひとつの軍勢」なのだ。あえて「諸」をつけたということは、越後の上杉方の軍勢だけではなく、上記の太田資正のように関東の勢力で上杉方についた軍勢を含めた意味が込められている。それが「開越諸軍勢」という表現になったのであり、「越諸軍勢」ではない。これらのことから、永禄4年に小仏に関所が存在したという説は、史料のうえからは全く否定される。

設置・移設の年代については『新編武蔵風土記稿』では永禄4年以前の設置で、「天正の初」（天正元年は1573年）に移転となっているが、『武蔵名勝図会』では天正の始めに設置され、駒木野移転は天正8年とある。いずれにしても一次的な史料に欠けるため、設置・移設の詳細は不明である。さらには駒木野の中でも場所を移転したようで、最終的に現在の関所跡の地に移転したのは1616年（元和2年）とされている。

廃止年代は明確で、明治政府が全国の関所を廃止した1869年（明治2年）正月である。

## (2) 宿場町としての小仏地域

戦国期には、武蔵国から甲斐国に行くためには、現在「陣場街道」と呼ばれているルートが一般的であった。しかし江戸時代初期の1604年（慶長9年）に江戸から小仏峠を越えて甲府に達するルートが開通した。このルートは下諏訪まで延長され、後に五街道のひとつである甲州道中となる。

街道の開通によって小仏を取り巻く環境も一変した。地元以外の通行人が増加するに伴い、この地域には東（小仏川下流沿い）に駒木野宿、西（同上流沿い）に小仏宿という2つの宿場町ができた。駒木野宿には旅籠が12軒、本陣、脇本陣がそれぞれ1軒ずつ、小仏宿には旅籠11軒、本陣、脇本陣はなかった。規模としてはそれほど大きくはない。宿場町としての機能は両宿で半月ごとに分担していた。月のうち1日から15日は小仏宿が勤め、16日から月末までを駒木野宿が勤めた。御触書などを掲示する高札場は小仏宿にあった。

### (3) 関所の概要

小仏関所は両宿場町の間に位置していた。関所の絵図が残っているので、それを参考にしながら街道を歩いてみよう。駒木野宿から西に街道を登ると、やがて左手を流れる小仏川に直角に交わるように小川が道を横切っている。その川の向こう(西側)が関所の敷地内である。小川には幅2間(1間は約1.8m)、長さ4間の板橋が架けられていた。

橋を渡れば東の木戸があり、関所の高札場もここにあった。東の木戸から西門までは25間あり、両門の中間に番所が建っていた。番所は東西7間半、南北3間の建物で南面していた。

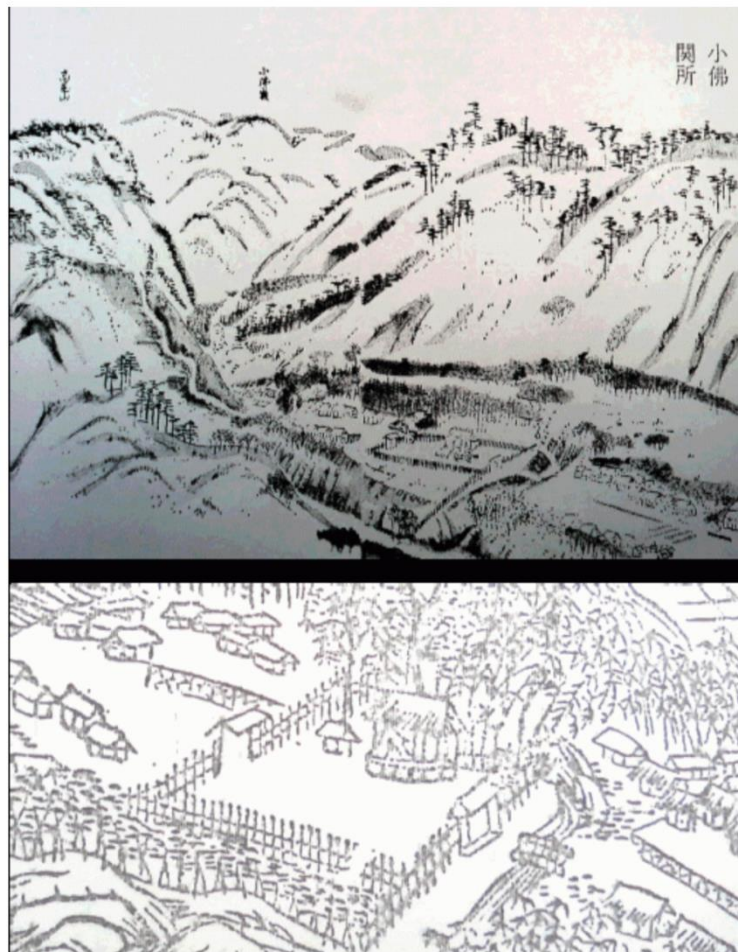
この番所の前には上面が平たくなった石が2つ置かれている。番所側の石は「手形石」と呼ばれ、通行人がこの石の上に道中手形を置いたという。もうひとつの石は「手付石」で、手形の吟味中にこの石に手をつけて待ったと言われている。現在でも2つの石は残っており、「史跡小仏関址」と刻まれた石碑の前に並んでいる。

関所の敷地を取り囲んで矢来(竹や木の柵)が方形に設けられていた。特に東側の矢来は小川沿いに南に延び、小仏川を超えて高尾山麓まで達しており、その長さは120間もあったという。

江戸時代に参勤交代で小仏関所を通過した大名は飯田、高遠、高島の3藩だけであったが、江戸—甲府間の交通は特に盛んで甲府勤番の武士をはじめ、商人や旅行者などでにぎわっていた。幕末になると、横浜から観光に来たイギリス人やアメリカ人の姿も見られた。さらに戊辰戦争の際には、近藤勇や板垣退助らがこのルートを通って西に東へと駆け巡った。

1888年(明治21年)には大垂水峠を越える新しい甲州街道が開通し、1901年には小仏峠の真下を小仏トンネルが貫通して鉄道(現中央本線)が敷設された。これにより小仏峠を越えるルートは街道としての役割を終えた。

1967年(昭和42年)には中央自動車道の小仏トンネルも開通した。現在は渋滞がよく発生する区間でもあるが、トンネル通過中に思い出す余裕があれば(あくまでも安全運転で)、小仏峠の真下で古の小仏越えに思いを馳せるのもいいだろう。



<参考文献>

『新編武蔵風土記稿』(蘆田伊人校訂、雄山閣、1981年)

『武蔵名勝図会』(片山迪夫校訂、慶友社、1967年)

『新編武州古文書 上』(萩原龍夫・杉山博編、角川書店、1975年)

『多摩の五千年—市民の歴史発掘』(多摩史研究会編、平凡社、1970年)

『多摩歴史散歩①』(佐藤孝太郎、有峰書店、1973年)

『国史大辞典』(第8巻、吉川弘文館、1987年)

(創価大学講師 開沼正)



## 目次

- 自然環境
- 歴史
- 史跡・遺跡
- 人物
- スポーツ
- 農業・林業
- 執筆者一覧
- リンク集

## 人物

### 横山党（よこやまとう）

横山党は、平安時代末期から鎌倉時代前期にかけて、南武蔵・北相模一帯を本拠とした中小武士団の結合のことである。党とは、純粋な血縁関係や擬制的な血縁関係によって同族意識を持った武士団が結合したもので、他の一般的な武士団のよう[...]

### 北条氏照（ほうじょう うじてる）

1540(天文9)年～1590(天正18)年 室町時代後半(15世紀半ば以降)は、戦国時代と呼ばれ、日本の各地で戦乱が激化していた。関東には、室町幕府の地方支配組織である鎌倉府が置かれ東国一帯を統治していたが、長官であ[...]

### 大久保長安

1545年(天文14年)～1613年(慶長18年)。徳川家康の側近として、戦国～江戸時代初期に民政や鉱山開発を担当した人物。大久保長安と名乗るのは後の時代のことであるが、ここでは大久保長安、あるいは長安で通す。(1)[...]

### 松姫

1561年(永禄4年)～1616年(元和2年)。武田信玄の五女として甲府に生まれる。『新編武蔵風土記稿』では「六女」となっているので、これにならう記述も多い。信玄の側室・油川氏を母とする。新たに御殿を造営して住んだこと[...]



## 目次

- 自然環境
- 歴史
- 史跡・遺跡
- 人物
- スポーツ
- 農業・林業
- 執筆者一覧
- リンク集

## 横山党 (よこやまとう)

横山党は、平安時代末期から鎌倉時代前期にかけて、南武蔵・北相模一帯を本拠とした中小武士団の結合のことである。党とは、純粋な血縁関係や擬制的な血縁関係によって同族意識を持った武士団が結合したもので、他の一般的な武士団のように惣領の支配が強くなく、党内の諸氏は同盟者的関係にあって合戦などのときに共同して参戦した。武蔵国には、猪俣党・児玉党・丹(たん、丹治)党・西党・私市(きさい)党・村山党のような党的武士団があり、横山党も含めて武蔵七党(むさしちとう)と総称された。このうち横山党は、小野を姓とする横山氏をはじめ、梶田氏・監原(相原)氏・海老名氏・本間氏・田名氏・愛甲氏・平子氏・古郡氏・目黒氏・成田氏・中条氏・大串氏・玉井氏・別府氏・箱田氏・平山氏など七十余氏からなる党で、武蔵七党の中で最大規模を誇った。横山党の称は、八王子市元横山町付近に所在した横山庄(よこやまのしょう、九条家領の船木田庄との重層的関係が指摘されている荘園である)を拠点とする横山氏が、その中心的存在であったことから生まれたものと考えられる。

### (1) 平安時代末期の横山党

『横山党系図』にみえる始祖伝承によれば、横山氏は、小野篁(おののたかむら)七代の子孫小野孝泰が武蔵守(むさしのかみ)となり、その子義孝が武蔵権介(ごんのすけ)として横山を本拠としたことに始まるという。中央貴族の小野氏が、武蔵国小野牧(おののまき)の別当に任命されたのを契機に、10世紀半ば頃から武蔵に土着して武士化していったのであろう。

横山党の史料上の初見は、源師時(みなもとのもろとき)の日記『長秋記(ちょうしゅうき)』の1113年(永久3)3月4日条の「横山党、内記太郎を殺害するによって、追罰の宣旨を下さる(もとは漢文、便宜上、書き下し文に改めた)」である。関連史料が少ないため、事件の詳細については明らかにできないが、12世紀の初頭には横山党と呼ばれる武士団が活動していたことを確認することができる。

1156年(保元1)、鳥羽上皇の死後、後白河天皇派と崇徳上皇派との確執から保元の乱が起きた。武士たちも源義朝・平清盛が天皇方に、義朝の父為義と弟為朝、清盛の叔父忠正が上皇方に立って都大路で激突した。武蔵七党の武士の多くは義朝に従って戦った。『保元物語』は、義朝に従う武士として横山・平山・相原・児玉・中条・成田・箱田・別府などの諸氏の名を挙げている。ただし、3年後の1159年(平治1)に起きた平治の乱を描いた『平治物語』には、横山党の諸氏の名はみえない。平治の乱で義朝が清盛に敗れて殺され、その遺児頼朝が伊豆国に配流されると、平氏全盛の時代が到来する。この時期、武蔵七党の武士たちは平氏方である畠山氏の系列下に入ったが、横山党の一部は相模国の大武士団三浦氏や、流人の頼朝と比較的近い関係を保った。

### (2) 鎌倉時代、源頼朝期の横山党

1180年(治承4)8月17日、源頼朝が伊豆国の在庁官人(ざいちょうかんじん)北条氏らに支えられて挙兵し、平氏一門の山木兼隆(やまきかねたか)を討った。これにより、源平合戦の動乱が幕を開けた。13世紀末に鎌倉幕府が編纂した歴史書『吾妻鏡(あずまかがみ)』の同年8月20日条には、伊豆から相模へ向けて進発した頼朝につき従った武士たちの名が挙げられているが、その中には横山党出身の義勝房成尋(ぎしょうぼうじょうじん)の名がみえる。その後の合戦では、成尋の子息中条家長が頼朝の弟源範頼の軍勢の一員として九州にまで転戦し、横山時兼(よこやまとしかね)は、1185年(元暦2)、源義経の配下として屋島の戦い・壇の浦の戦いで奮戦した。

平氏滅亡後の1189年(文治5)、頼朝は大軍を率いて奥州を攻め、清衡(きよひら)以来、泰衡(やすひら)に至るまで四代にわたって栄えた奥州藤原氏を滅ぼした。横山党の武士たちも頼朝方として活躍し、大串次郎は泰衡の異母兄国衡(くにひら)の首を取るという戦功をあげた。また、横山時広は頼朝から、源頼義が安倍氏を討った前九年の役の例にならって泰衡の首を懸けるという名誉な役を命じられた。こうした数々の軍功により、横山党の武士たちは本領を安堵されるとともに、各地に新たな所領を得て発展した。

その後も、横山党の武士たちは鎌倉幕府の御家人として積極的に活動した。弓射の名手であった愛甲季隆(あいこうすえたか)は、たびたび幕府の御的始(おまとはじめ)の射手としてその腕前を披露し、また1193年(建久3)8月、頼朝と北条政子との間に男児(のちの3代将軍実朝)が誕生した際には、小野成綱が御護刀を献上した。

### (3) 和田合戦と横山氏の滅亡

頼朝の死後、2代将軍頼家・3代将軍実朝の時期になると、頼朝未亡人の政子の実家である北条氏が急速に勢力を伸張した。北条氏は、頼家の乳母(めのと)の実家として力をつけつつあった比企氏を滅ぼし、武蔵国の最有力御家人の畠山重忠(はたけやましげただ)も滅ぼした。一方、横山党の中心的存在であった横山氏は、時広の妹が侍所別当である和田義盛(わだよしもり)に嫁し、娘(時兼の妹)が義盛の子息常盛(つねもり)に嫁すなど、時広・時兼2代にわたって和田氏と姻戚関係を結んでその派閥に連なった。ただし、この頃には横山党内の諸氏の結合は弱まってきており、それぞれが独立した御家人として活動していたため、横山氏の動きに同調しない一族もいた。

そうしたなか、相模国への支配力を強めようとする執権北条義時と和田義盛との関係が悪化し、1213年(建暦3)5月2日、義盛は相模国の御家人土屋氏・山内氏・毛利氏などとともに義時や、義時と連携していた大江広元亭、さらには実朝の將軍御所を攻撃した。和田勢の中には当初より横山党の古郡保忠(ふるごおりやすただ)が加わっていたが、3日未明には横山時兼も加勢し、和田軍は幕府軍を大いに苦しめた。しかし、最後には義盛・常盛をはじめ和田方の主な武将たちが戦死・自害・逐電し、丸二日に及んだ激戦は終結した。これを和田合戦という。『吾妻鏡』は合戦前後の状況、合戦の経過、戦死者や捕虜の名前などを詳細に記している。和田氏に加勢した横山氏の本宗家はこの和田合戦で滅亡したが、横山党内の結合が弱まっていたため、他の諸氏は存続した。

(創価大学文学部教授 坂井孝一)



## 目次

- 自然環境
- 歴史
- 史跡・遺跡
- 人物
- スポーツ
- 農業・林業
- 執筆者一覧
- リンク集

## 北条氏照 (ほうじょう うじてる)

1540(天文9)年～1590(天正18)年

室町時代後半(15世紀半ば以降)は、戦国時代と呼ばれ、日本の各地で戦乱が激化していた。関東には、室町幕府の地方支配組織である鎌倉府が置かれ東国一帯を統治していたが、長官である鎌倉公方は古河公方と堀越公方に分裂。鎌倉公方を補佐する関東管領職を勤めていた上杉氏も、山内上杉氏・扇谷上杉氏に分裂し対立していた。さらに在地の武士団の動きも加わって、いち早く戦国の様相を呈していた。その関東を制覇していったのは、戦国大名北条氏である。鎌倉時代の執権職を務めた北条氏と区別して後北条氏と称される。

後北条氏の始祖伊勢盛時(のち北条早雲)は、16世紀初め、伊豆と相模を平定した。以後、北条氏による関東地方支配は拡大していく。4代当主北条氏政の時には、伊豆・相模に加えて、武蔵・下総・上野、そして常陸・下野・駿河の一部を含む関東の主要部を支配し、本拠を小田原に置いた。

この4代当主氏政の弟が、北条氏照である。文武両道に秀でた聡明な人物といわれている。武勇に優れ、16歳の初陣から、一生を通じて勝戦36度といわれ、また織田信長や徳川家康、伊達政宗らと親交を結ぶなど、政治外交的の手腕にも優れる。学問詩歌を修め多摩の名僧卜山舜悦に参禅して禅機を会得した。

1540(天文9)年、北条家3代当主北条氏康の3男として生まれた。(1541、42年という説もある。長男早世のため、2男とも記される。) 1546(天文15)年4月の河越城の攻防(河越夜戦)で山内憲政・扇谷朝定を撃退した後、敗退した山内氏に仕えていた滝山城城主・大石定久の養子となり、滝山城と武蔵守護代の座を譲られた。氏照6才の時である。

1559(永禄2)年には家督を譲られ、2年後滝山城に入る。その支配地域は、八王子を中心に、北は五日市・青梅・飯能・所沢、南は相模原・大和、横浜の一部に及ぶ広大なものであった。氏照21歳の時である。

20歳代は父氏康と共に関東各地に連戦、安房の里見氏・関宿城(野田市)の梁田氏などと戦った。多磨地域でも、勝沼城(青梅市)を攻撃し、在地の領主・三田綱秀を滅ぼすなど、北条氏の勢力拡大に寄与した。

1568(永禄11)年、甲斐の武田信玄軍2万が武蔵を攻撃、翌年武田信玄家臣小山田信茂らの軍勢は、小仏峠から侵攻してきた。北条氏照方は高尾山麓の廿里(とどり)(八王子市廿里古戦場)にて敗退、更に滝山城三の丸まで陥落してしまい落城寸前となる。何とか撃退したものの、丘城である滝山城の防御体制の不十分を痛感した氏照は、堅固な山城構築を図った。1577、78(天正5、6)年頃に、深沢山(現在の城山)に新城築城を開始した。そして1587(天正15)年頃に八王子城と名づけられたこの城を本拠とした

この時期、豊臣秀吉は、全国統一の事業を展開しており、中国(毛利輝元)・四国(長宗我部元親)を既に平定していた。氏照が八王子城に本拠を置いた1587年5月に秀吉は、九州の島津義久を降伏させ、西日本の支配を確立した。秀吉の天下統一に残されたのは、関東(北条氏政氏直父子)と東北(伊達政宗)だけとなった。

同年7月北条氏政・氏直は秀吉との戦いに備え『動員準備令』を出す。八王子城主北条氏照も『陣触』を発し、兵糧や梵鐘(銃弾!)などの集中、妻子の入城(人質!)など戦争準備に入った。1589(天正17)年11月の名胡桃事件(なぐるみじけん;北条方の沼田城代猪俣邦憲が、真田昌幸の名胡桃城を奪取)が起こると、秀吉は「関東惣無事令(かんとうそうぶじれい;私闘の禁止)」違反として、北条氏政・氏直に宣戦し、12月「諸大名に氏政・氏直討討」の陣触れを発した。翌1590(天正18)年、北条氏攻撃が開始された。

徳川家康・織田信雄らの「東海道北上軍」17万余、長宗我部元親らの「水軍」1万余、前田利家・上杉景勝・真田昌幸らの「北陸支軍」3万5千、総勢22万の軍勢は北条支城を次々と落としていった。

6月23日、八王子城は半日で落城する。残るのは小田原本城だけとなった。氏照は前年から将兵4000人と共に、小田原城に詰めた。

4月 秀吉は、小田原攻め開始した。北条方は、3カ月の小田原城籠城のあと、7月5日 秀吉に降伏し、開城した。7月11日 氏政(兄・4代当主)と共に氏照も切腹を命じられた。

墓は、八王子城跡旧宗関寺墓所にある。1689年に営まれた北条氏照公100回忌追善法要の折、氏照家臣の墓と共に建立された。

小田原市栄町二丁目、当時の北条家菩提寺伝心庵の跡地にも兄氏政の墓と共に並んで墓所がある。

参考文献

鈴木良一『後北条氏』有隣堂書店、1988年。

長谷章久『東京の中の江戸』角川書店、1984年。

峰岸純夫 木村茂光編『史料と遺跡が語る中世の東京』新日本出版社、1996年。

色川大吉編『多摩の五千年 市民の歴史発掘』平凡社、1970年。

峰岸純夫 梶國男 近藤創編『みる きく あるく八王子城』揺籃社ブックレット4、2001年。

梶 國男 吉山 寛『高尾山と八王子城』揺籃社ブックレット8、2009年。

八王子市教育委員会作成『八王子城跡パンフレット』1990.1991年。

(工学院大学教職課程非常勤講師 幡野龍一)







## 目次

- 自然環境
- 歴史
- 史跡・遺跡
- 人物
- スポーツ
- 農業・林業
- 執筆者一覧
- リンク集

## 大久保長安

1545年(天文14年)～1613年(慶長18年)。徳川家康の側近として、戦国～江戸時代初期に民政や鉱山開発を担当した人物。大久保長安と名乗るのは後の時代のことであるが、ここでは大久保長安、あるいは長安で通す。

### (1) 武田家臣の時代

長安は、甲斐武田氏に仕えた金春座の猿楽衆・大蔵大夫の次男と伝えられる。あるいは金春七郎喜然の子で自身が大蔵大夫と称したとも伝えられる。通称は藤十郎とされているが、おそらく猿楽衆としての芸名であろう。父親、本人ともに姓名が明確に伝わっていないということは、それだけ低い階層の出身だったと考えられる。

武田氏の家臣として土屋姓を名乗ったというが、資料が残っていないので土屋藤十郎だったのか、あるいはすでに十兵衛を用いて土屋十兵衛と称していたのかは明らかではない。諱の長安についても由来は定かではない(長安の父親が信安との説もある)。

### (2) 徳川家臣の時代

1582年(天正10年)3月に甲斐武田氏が滅亡した。短期間の織田氏支配の後、同年6月には徳川家康の支配下にはいった。武田氏の旧臣たちの多くと同様に、大久保長安もこの時に徳川氏の家臣になったとされる。「大久保」を名乗り始めたのも徳川の家臣になってからである。

長安の持ち味は独自の検地方法(地方仕法)だった。伊奈忠次の伊奈流とならんで長安の仕法(のちに石見流と呼ばれる)は名高い。佐渡や石見の銀山も、長安が所管するようになってから産出量が飛躍的に伸びた。家康が領国支配を固める過程で、長安のもつこれら知識・技術は大いに役立った。こうして家康の家臣としての長安の地位も次第に向上し、俗に「代官頭」と呼ばれるようになった(代官頭は正式な職名ではない)。

### (3) 長安、八王子に移る

1590年(天正18年)7月、小田原北条氏が豊臣秀吉に降伏したことで、秀吉による全国統一政権が確立された。その前の月(6月)には、小田原城の支城・八王子城が、秀吉配下の前田・上杉連合軍の攻撃によって落城していた。

徳川家康は東海地方から北条氏の旧領である関東に転封され、江戸を本拠地とした。関東各地に家臣団を配置し、大久保長安は八王子に配置された。当時の八王子は戦禍にさらされ、城下周辺は廃墟に近い状態だった。北条氏の残党が浪人として徘徊し、治安も悪かった。長安はこれら難問の解決を家康から任せられたわけである。

長安が八王子に着任した時期については3つの説がある。落城直後の1590年説、1591年4月にはすでに着任していたという説(長安が高尾山に出したという制札が残っている)、1592年(天正20年＝文禄元年)説である。最後の説は、「当所江宿越之名前控」という資料(1717年)に基づいている。いずれにしても徳川氏の関東支配において極めて早い時期に着任したことに間違いはなからう。

八王子在任中に長安が家康から受けた知行はどれくらいだろう。滝山(八王子市滝山町)を中心に3万石という説もあれば、八王子城主だった北条氏照の旧領9万石をそのままらったとも言われる。しかし長安の知行については『徳川実紀』に「関東にて千石下されしのみにて。別に賜はりし地はあらず」とあるだけである。代官頭としての支配高も100万石を越え、長安の権勢ならぶ者がいなかったという記述もよく見かけるが、領地の石高と支配高では意味が全く違う。

家康は、西日本から関東への出入り口を譜代大名で固めた。東海道の口である箱根峠の麓・小田原には大久保氏(4万5千石)、中山道の口である碓氷峠の麓・前橋には平岩氏(3万3千石)、さらに後には高崎に井伊氏(12万石)を配置した。彼らはそれぞれ城を築き、西に対する備えをしている。しかも彼らの石高も明確に記録に残っている。

それに対して長安は城をもたず、陣屋だけだった。陣屋は「広大な敷地に壮大な建物」などと評されることが多いが、城に比べれば面積もはるかに小規模で、戦時における防御機能はゼロに等しかった。

代官頭(＝代官を統括する職)という立場を考慮すれば、大久保長安はせいぜい勘定奉行クラスと考えるのが妥当であろう(勘定奉行就任者として長安を載せている事典もある)。もちろん管轄が広範囲にわたっていたことから、長安は後の勘定奉行よりは大きな権限を行使し、時には年寄(後の老中)的な職務内容もこなしたかもしれない。しかしそれは江戸幕府の職制が固まる前の時期だからこそできたことである。大久保長安が1万石を越える知行を受けていたとは考えにくい。

### (4) 八王子の建設者

八王子にとって忘れてはならないのは、大久保長安の「八王子の建設者」としての顔である。国道20号線に沿って東西に延びる現在の八王子中心街の基礎は、大久保長安によってつくられたからだ。

八王子落城直後には原野だった土地に町割をして、地元からはもちろん、全国から人を募った。前述の「当所江宿越之名前控」には名前だけでなく出身地も記載されているが、越後、佐渡、伊勢なども見られ、かなり広い範囲から人が集まったことが分かる。

道路の整備も進んだ。家康が江戸に本拠地を置いたことにより、八王子と江戸を結ぶ幹線道路が建設された。この道は西に延伸され、小仏峠を通過して甲州に抜けた。これが後の甲州道中へと発展していく。

甲州へ通じる道路は、もとは現在の滝山街道に沿ったルート(古甲州道)で、大菩薩峠から甲州に入っていた。あるいは和田峠越えの陣馬街道というルートもあった。長安はこのルートを付け替え、新しく建設する町(=八王子)を経由させたわけだ。これにより江戸時代の八王子は宿場町として大いに栄え(甲州道中では最大の宿場町)、明治時代以降も、豊かな都市基盤をもつ町として南多摩郡役所が置かれるなど、行政の中心地であり続けた。現在でも55万人を超える人口をもつ、日本でもかなり大きな都市である。

治水事業に関しては、市街地の北を流れる浅川の水害から町を守るため、長安は堤防を築いた。これは後に「石見土手」と呼ばれるようになる。現在では宗格院(八王子市千人町)の一角にわずかな石積みが残るだけとなっている。

#### (5) 大久保長安の死、およびその後

1613年(慶長18年)、長安は数え69歳で死亡した。旧暦の4月25日である。死因は梅毒(下疳)とも中風とも言われている。遺言では、遺体を金の棺に納めて甲斐に送り、国中の僧侶を集めて葬儀を華麗に執り行うように頼んだようだが、あまりにも分不相応な葬儀に家康も眉をひそめ、中止させた。

その後も長安の生前の汚職による蓄財が明るみに出て、長安の長男・藤十郎をはじめとする男子7人は各地の大名家に預けられ、全員切腹させられている。長安の縁者もそれぞれ処罰されている。

これだけの厳しい処分に対しては様々な憶測が広がった。長安が権力闘争に敗れた結果と見る向きも強い。しかし権力闘争であれば長安が死亡した時点で終わるはずで、死後に遺体にまで辱めを与える必要はない。やはり汚職による蓄財が原因と素直に解釈したい。成立まもない徳川幕府という組織の中で、不正行為には厳しく対処するという姿勢を家康が示したのである。

#### <参考文献>

『新訂増補国史大系 徳川実紀 第一篇』(吉川弘文館、1981年)

『新編武蔵風土記稿』(蘆田伊人校訂、雄山閣、1981年)

『国史大辞典』(第2巻、第5巻、吉川弘文館、1980年、1984年)

『多摩の人物史』(武蔵野郷土史刊行会、1977年)

『山梨県史 通史編2 中世』(2007年)

『江戸幕府大事典』(吉川弘文館、2009年)

『江戸時代の八王子宿』(樋口豊治著、揺籃社、1990年)

(創価大学講師 開沼正)



## 目次

- 自然環境
- 歴史
- 史跡・遺跡
- 人物
- スポーツ
- 農業・林業
- 執筆者一覧
- リンク集

## 松姫

1561年(永禄4年)～1616年(元和2年)。武田信玄の五女として甲府に生まれる。『新編武蔵風土記稿』では「六女」となっているので、これにならう記述も多い。信玄の側室・油川氏を母とする。新たに御殿を造営して住んだことから「新館御料人」とも呼ばれる。永禄10年に織田信長の嫡子信忠(当時は奇妙丸)との結婚話が進められ、同年11月27日に婚約が成立した。その後、織田氏との関係悪化により婚約が解消された。

それについて『新編武蔵風土記稿』では、1573年(元亀3年)12月22日の三方ヶ原の合戦において、信長が家康に加勢したことが武田・織田両氏の間を悪化させ、婚約の解消に至ったとしている。この説は長く支持されてきたが、『山梨県史』では、既に1572年(元亀2年)頃には婚約は解消されていたという説を載せている。

1573年(天正元年)に父信玄の亡き後、兄である仁科信盛を頼って信州・高遠城に身を寄せた。信盛などからは再婚の勧めもあったようだが、世間との関わりを持ちたくないという意志により18歳のときに出家した。「容色志操」とある通り、美しく意志の強い女性だったのだろう。数えの年齢として計算すれば、出家は1578年(天正6年)のことと思われる。

1582年(天正10年)2月、東国侵出に野心を抱く織田信長は信濃・甲斐に侵攻した。高遠城も信長の攻撃にさらされ、兄の仁科信盛は戦死したが、松姫は栗原村(山梨県山梨市)の海島寺(海洞寺、開桃寺とも)に避難した。海島寺は武田氏所縁の尼寺である。松姫の他には、姪2人(武田勝頼の娘・貞姫、仁科信盛の娘・督姫)と小山田信茂の娘・香具姫の女性3人がおり、彼女らに家臣の小沢氏(和泉、新兵衛、彦左衛門)と侍女3人が付き従った。

武田氏にとって戦況が悪化すると、松姫たちは甲斐国内からも脱出せざるを得なくなり、一時的に武州の案下山に隠れ住んだ。案下峠は現在の和田峠(東京都八王子市と神奈川県相模原市の境)のこただから、松姫たちの脱出は、甲斐と武蔵を結ぶ当時の一般的なルートである和田峠越えだったようだ。この周辺は小田原北条氏の勢力圏内、当時は北条氏直の叔父・氏照が滝山城に配置されていた。

隠れ住んだとされているにもかかわらず、北条氏の武将からは求婚の申し込みが多数あったらしい。「武田の姫君が領内に住んでいる」という事実は、公然の秘密として黙認されていたのだろうか。

というも氏直の父(氏照の兄)である北条氏政は、武田信玄の長女(名前未詳)と結婚しているからである。つまり松姫と氏政、氏照は義理の兄妹になる。長女の輿入れが1554年(天文23年)で、松姫が生まれる7年前のことなので、この長女と松姫は会ったことがないと思われる。しかし曲がりなりにも北条氏の縁戚となれば、少なくとも手荒な待遇はしなかったのであろう。

北条家当主の氏直は松姫の甥(姉の子、年齢は松姫より1歳下)に当たり、血筋としてはかなり近い。しかし武田氏が滅んでしまえば、武田氏と北条氏の同盟関係も消滅してしまう。松姫としても血縁関係を盾にして、むやみに氏直や氏照に頼るというわけにもいかなかったと思われる。

このような状況で、松姫たちは小田原や八王子の城下に住むことなく、八王子城下からほど遠い横山村御所水に茅屋を建てて移り住んだ。『八王子千人同心史資料編 I』には「御所水」ではなく「上之原」とあるが、いずれも現在の八王子市台町である。主従ともに紡織を営みながら幼子を育て、一族の者たちを養ったという。生活はかなり苦しかったようである。このような生活が8年ほど続いた。

1590年(天正18年)3月、豊臣秀吉は小田原攻めのために京都を出発した。4月には小田原城が包囲され、関東各地の支城も秀吉軍の攻撃を受けた。6月には、秀吉配下の上杉・前田の連合軍が八王子城を落とし、城下は廃墟同然となった。7月には小田原の本城が秀吉に降伏し、旧北条領は徳川家康に与えられた。

これにより松姫の生活はかなり向上したようだ。松姫と徳川家康との間に直接の縁戚関係はなかったが、家康は本能寺の変後に甲斐を領地に組み込み、武田氏の旧臣を多数召し抱えていた。その武田旧臣が家康の関東転封とともに移住してきたのだ。彼ら武田旧臣が旧主筋である松姫の困窮した状況を知り、彼女の生活を支えた。特に後に千人頭となる諸氏や大久保長安など、八王子に居住していた者たちからは手厚い援助があったという。

これ以降、松姫の死亡までは記録がほとんど残されていない。「便りが無いのは良い便り」の言葉通り、松姫にとっては静かな月日が流れたのであろう。戦乱に翻弄された前半生とは正反対の生活である。

松姫と一緒に八王子に移住してきた姫たちもそれぞれの人生を歩んだ。香具姫は、岩城城主・内藤忠興の側室となり、後に藩主となる義概を生んだ。貞姫は、高家の宮原義久(足利氏庶流)の正室となり、足利・武田というかつての名門の血脈を後世に残した。もう一人の姪である督姫は、松姫と同様に出家し「生式」と号した。1613年(慶長18年)、29歳で没した。院号は玉田院といい、墓は極楽寺(八王子市大横町)にある。

1616年(元和2年)4月16日、松姫は56歳で死亡した。『新編武蔵風土記稿』には「端座微笑」して「逝」とある。法名は信松院殿月峰永琴大禪定尼という。松姫の死後、遺言により、その住居地は信松院という寺となった。松姫の墓も信松院の境内にある。

なお、信松院の百回会に当たる1715年(正徳5年)は、松姫の百回忌にも当たる。信松院では、松姫の追善法要が開催された。これには当時の老中・土屋政直(常陸国土浦藩主)をはじめ、柳沢吉里(甲斐国甲府藩主)、真田幸道(信濃国松代藩主)らの諸大名から香典が届けられた。いずれも武田氏の旧臣である。その他、武田氏ゆかりの旗本も香典を届け、あるいは参列した。

松姫が、織田信忠との婚約を除いて結婚・婚約をしなかったことは、よく知られている。生涯独身を貫いたことが、信忠への貞操を守ったということで讃えられることも多い。しかし、それは多分に19世紀の価値観であろう。あるいは男の願望といってもいい。しばしば引用される「聘(へい)礼(れい)(結納)已(すで)に行はれしときは、豈そむきて他に嫁せんや」という文言は『新編武蔵風土記稿』にあるが、この書物が完成したのは1820～1830年代(文政～天保)である。

戦国末期の日本に30年以上も滞在したルイス・フロイスは「日本の女性は処女の純潔を少しも重んじない。それを欠いても、名誉も失わなければ、結婚もできる」と述べている。松姫の周囲も結婚を勧めたり、あるいはたびたび求婚されたということは、女性の再婚に対する当時の人の意識がフロイスの記述通りだったことを裏付ける。松姫本人は、信忠に操をささげたわけではなく、自分の意志で結婚しなかったのだ。

明治以降、松姫の「貞淑」は教科書にも載り、教育の場で男性の一方的な価値観を植えつけることに利用された。本人も迷惑に思っているだろう。

<参考文献>

『新編武蔵風土記稿』(蘆田伊人校訂、雄山閣、1981年)

『八王子千人心史』(「通史編」「資料編Ⅰ」、それぞれ1992年、1990年)

『日本人名大辞典』(講談社、2001年)

『多摩の人物史』(武蔵野郷土史刊行会、1977年)

『山梨県史 通史編2 中世』(2007年)

『江戸幕府大事典』(吉川弘文館、2009年)

『ヨーロッパ文化と日本文化』(岩波文庫、1992年)

(創価大学講師 開沼正)



## 目次

- 自然環境
- 歴史
- 史跡・遺跡
- 人物
- スポーツ
- 農業・林業
- 執筆者一覧
- リンク集

## スポーツ

### 八王子の陸上競技（はちおうじのりくじょうきょうぎ）

八王子の陸上競技の幕開けは、1950年に八王子市陸上競技協会(初代会長:岡沢吉夫,本部:八王子市散田町)が設立されたことに始まる。翌1951年には第1回全関東八王子駅伝大会、中学校陸上競技大会、1955年には八王子縦走[...]

### 八王子のバレーボール（はちおうじのばれーぼーる）

八王子のバレーボールの始まりは、「八王子排球連盟」が創立された1947年(昭和22年)に遡る。1950年(昭和25年)には「多摩バレーボール連盟」主催の第1回秋季大会が開催され、片倉八王子製糸女子チーム[...]

### 八王子の柔道

八王子の柔道の始まりは、今を去ること90年前(八王子が市制を布いて4年後)の大正10年10月に新興都市の意気に燃えた青年達の熱意が実を結び、『八王子市体育会柔道部道場』の建設(八王子市平岡町)となって現れた。当時は[...]

### 水泳を通して社会貢献できる楽しさ

科学技術が進歩し、高齢化が進む現代社会において、人生をより豊かに過ごし、健康で充実した生活を営むため、現在生涯学習の場が求められている。中央大学では1986年12月に多摩キャンパスにおいて「中央大学クレセントアカデ」[...]





## 目次

- 自然環境
- 歴史
- 史跡・遺跡
- 人物
- スポーツ
- 農業・林業
- 執筆者一覧
- リンク集

## 八王子の陸上競技（はちおうじのりくじょうきょうぎ）

八王子の陸上競技の幕開けは、1950年に八王子市陸上競技協会(初代会長:岡沢吉夫,本部:八王子市散田町)が設立されたことに始まる。翌1951年には第1回全関東八王子駅伝大会、中学校陸上競技大会、1955年には八王子縦走駅伝多摩丘陵大会、八王子陸上競技記録会、10kmロードレース大会、1958年には八王子三郡一周駅伝大会、1960年には八王子陸上競技選手権大会が開催され、陸上競技が八王子市民の中に徐々に浸透していった。その中で現在も続く大会として、全関東八王子夢街道駅伝競走大会、八王子陸上競技選手権大会、八王子ロードレース大会があり、さらに1998年より八王子ロングディスタンス大会が開催されている。尚、1981年から12回続いた高尾山競走大会は、近年の登山ブームによる観光客の増加により八王子の名所を走る人気の大会であったが中止となった。

特に駅伝は、上記大会の中でも八王子市民の誇る大会である。第1回全関東八王子駅伝大会は予想の2倍の89チームが参加し、旧市役所前(現いちょうホール)をスタートし、甲州街道の大垂水峠までの往復コースを若者が襷をかけて走る姿には、沿道から市民の大声援が送られた。第1回大会の優勝チームは、日本大学(大学の部)、湘南クラブ(一般の部)、逗子開成高校(高校の部)であった。その後、交通事情などにより、甲州街道から栲田町のコースに変更となったり、一時は関係者の協力で多摩ニュータウンの中での走路となったりした。長い歴史を持つこの駅伝大会は、2002年の第53回大会から当時の黒須隆一市長の「スポーツを通して街起こし」の掛け声の一環として「全関東八王子夢街道駅伝競走大会」と名称を変え、コースも市内を走る現在のコースとなった。大雪で中止された1966年の第16回大会以外、現在までに62回を数え、第62回大会では参加チーム数最高487チーム1991人の参加となり市街地の公道を走るという事では全国有数の駅伝大会へと発展し続けている。

八王子は駅伝大会の開催に留まらず各世代の駅伝チームが全国的に活躍している。八王子市石川町に籍を置くコニカミノルタ陸上競技部は、実業団駅伝最高峰の大会である全日本実業団駅伝において、2001年に初優勝を飾って以降、三連覇を達成、優勝総数は歴代2位の6回を数える。チームの中心である松宮隆行選手は2008年の北京五輪において5000mと10000mに日本代表として出場している。また、東京箱根間往復大学駅伝競走においては、中央大学(八王子市東中野)が83年連続85回出場、帝京大学(八王子市大塚)は5年連続13回出場、拓殖大学(八王子市館町)が2年連続34回出場している。なお、中央大学は過去14回の優勝を飾っている。全国高校駅伝大会においては、八王子高校(八王子市台町)女子チームが過去7回出場し、最高順位は2009年第21回大会の20位である。全国中学校駅伝大会において、八王子市内の中学から男子過去8回、女子過去9回出場し、最高順位は1994年の第2回大会川口中学校(八王子市川口町)男子チームが28位、1995年の第3回大会八王子第六中学(八王子市上野町)女子チームが16位である。

さらに、地元の小学生対象に、2003年よりコニカミノルタ陸上競技部協力のもと年間を通じた「ジョギング教室」が開催され、年度末には記録会も開催し「走る」楽しさと走りの基礎を伝えている。地域の社会人チームも富士森走友会、八王子走ろう会、富士森ランナーズ等が日々精力的に活動し、八王子ランナーズ会長の松田寛次氏は、2006年ホノルルマラソン80〜84歳の部で2位に1時間以上の大差をつける4時間28分で優勝し、東京中日功労賞も受賞した。

駅伝同様に、八王子にゆかりのあるトラック種目の選手も世界的に活躍している。近年では、都立八王子東高等学校から中央大学へと進み2004年アテネ五輪の110mHに出場した谷川聡選手をはじめ、法政大学出身で八王子市に在住し、2001年エドモントン世界陸上、2005年ヘルシンキ世界陸上の銅メダルを獲得した400mHの為末大選手(アテネ五輪および2008年北京五輪にも出場)、同じく法政大学出身の内藤真人選手(アテネ五輪および北京五輪の110mH出場)、金丸祐三選手(北京五輪の400m出場)等がいる。また、大学日本一を決める日本学生陸上競技対校選手権大会においては、中央大学が過去男子12回、女子7回の総合優勝を飾り、2011年の第80回大会では矢野美幸選手が400mH大会新記録で優勝を飾った。同校は、2011年第95回日本選手権リレーにおいても、男子4×400mリレーで大会新記録を樹立し、75回大会以来20年ぶりの優勝を果たした。高校日本一を決める全国高等学校総合体育大会では、1990年から現在まで毎年八王子高校(八王子市台町)の選手が出場を決め、2002年には男子総合2位、マイルリレーで優勝、2007年には女子100mHの4泉山理美選手が優勝を飾っている。中学日本一を決める全日本中学校陸上競技選手権大会では、2004年の第31回大会において川口中学校(八王子市川口町)の下山友里選手が走幅跳3位入賞、2006年の第33回大会において別所中学校(八王子市別所)の大熊征悟選手が走高跳5位入賞と好成績を収めている。

現在、八王子市の中高生を対象に、2013年東京国体に向け陸上競技協会、学校部活動の指導者、コニカミノルタ陸上競技部が連携しジュニア育成の為月1回選抜の練習会を開催し、地元の子どもたちから強い選手を育てる取り組みが行われている。八王子では、陸上競技協会と地元企業、学校、住民が協力しあいながら世代ごとに襷をつなぎ、「走る」ことの楽しさを通じて地域の陸上競技の普及、ジュニアや競技者の育成、底辺の拡大、さらには陸上競技を通じたスポーツ振興を目指していることが感じられる。

#### 関連情報

①八王子市役所HP『スポーツ』URL:<http://www.city.hachioji.tokyo.jp/kyoiku/sports/index.html> (2012年2月現在)

②八王子市陸協力50周年記念誌、2000年

③八王子市陸協力60周年記念誌、2010年

④豊泉三郎「陸上競技協会」『八王子市体育協会創立20周年記念誌』、1974年、86-87頁

⑤豊泉三郎「陸上競技協会」『八王子市体育協会創立30周年記念誌』、1984年、38-39頁

⑥石渡照久「陸上競技協会」『八王子市体育協会創立40周年記念誌』、1994年、42-43頁

⑦松本忠「陸上競技協会」『八王子市体育協会創立50周年記念誌』、2001年、112-113頁

⑧松田寛次「陸上競技協会」『八王子市体育協会創立60周年記念誌』、2001年、72-73頁

⑨コニカミノルタ株式会社『コニカミノルタ陸上競技部』

URL: <http://www.konicaminolta.jp/athlete/> (2012年2月現在)

#### 取材協力

①八王子市陸上競技協会 会長松本忠氏

②八王子市生涯学習スポーツ部スポーツ振興課(スポーツ振興担当)

③財団法人八王子市学園都市文化ふれあい財団スポーツ事業課

④八王子市生涯学習スポーツ部スポーツ振興課(運動施設担当)

(元東京藝術大学美術学部保健体育科研究室 教育研究助手、元工学院大学非常勤講師 木村真奈美)

## 目次

- 自然環境
- 歴史
- 史跡・遺跡
- 人物
- スポーツ
- 農業・林業
- 執筆者一覧
- リンク集

## 八王子のバレーボール（はちおうじのばれーぼーる）

八王子のバレーボールの始まりは、「八王子排球連盟」が創立された1947年(昭和22年)に遡る。1950年(昭和25年)には「多摩バレーボール連盟」主催の第1回秋季大会が開催され、片倉八王子製糸女子チームが優勝し、翌年の第1回春季大会も同チームが連覇を果たした。その後、戦後の衣・食・住に追われる生活にもゆとりが生まれ、余暇にバレーボールを楽しむ人が徐々に増加していった。そんな中、八王子市体育協会理事である千葉貞治氏らの呼びかけにより、1967年(昭和42年)に「八王子バレーボール連盟」が設立された。初代会長は、八王子市議会議員の田代重信氏が就任した。

「八王子バレーボール連盟」発足当初は社会人チームが主力で加盟団体も18チームと小規模であったが、1968年(昭和43年)以降はママさんバレーも取り入れられ、加盟団体も38チームとなり、一段と充実した形となった。1975年(昭和50年)5月には東京都から「社会体育優良団体」として表彰された。このうち、1976年(昭和51年)には一般、高校、家庭婦人を併せて63チームと急激に増加した。このような隆盛をみる要因は各学校の体育館や市民体育館の完備などがあげられるが、それにも増して大きな要因は、中学校や高等学校の女子バレーボール部の活躍が挙げられる。まず、1973年度(昭和48年度)第3回全日本中学校バレーボール選手権大会で、八王子市立第二中学校(八王子市中野上町)女子バレーボール部が全国制覇を成し遂げた。また同年度に八王子実践高校(八王子市台町)女子バレーボール部が第4回春の高校バレー全国高等学校バレーボール選抜優勝大会、第18回全国高等学校総合体育大会、第28回国民体育大会(千葉県)若潮国体において初の3冠王となり、翌1974年度(1949年度)に第5回春の高校バレー全国高等学校バレーボール選抜優勝大会と第19回全国高等学校総合体育大会で2冠を獲得し、計5冠王、公式戦96連勝という輝かしい金字塔をうちたてた。これらの出来事は、いやが上にも八王子のバレーボールの名声を高揚させ、その後加盟団体数は大幅に増加し、2006年度(平成18年度)には120チーム、2,050名にまで増加した。

八王子実践高校からは全日本女子チームにも多くの選手を輩出しており、1983年(昭和58年)のアジア選手権で優勝、1984年(昭和59年)のロサンゼルスオリンピックで銅メダルを獲得した三屋裕子をはじめ、1988年(昭和63年)ソウルオリンピック、1992年(平成4年)バルセロナオリンピック、1996年(平成8年)アトランタオリンピックに3大会連続で出場し、日本のエースアタッカーとして活躍した大林素子、同じくソウルとバルセロナの両オリンピックに出場した後ビーチバレーに転向し、アトランタオリンピックで5位、2000年(平成12年)シドニーオリンピックで4位に入賞した高橋有紀子、2004年(平成16年)北京オリンピック出場を果たした多治見麻子、1989年(昭和64年)・1991年(平成3年)ワールドカップに出場した福田記代子などがあげられる。また、近年でも狩野舞子、狩野美雪、鈴木裕子など、Vリーグや海外、日本代表などで活躍する選手を多く輩出している。

さらに、八王子にある大学の活躍もめざましい。中央大学(八王子市東中野)からは、Vリーグや全日本チームで活躍する選手を数多く輩出している。2008年(平成20年)の全日本大学バレーボール選手権大会3位入賞、スパイク賞を受賞し、同年の第20回アジア太平洋カップ代表、2009年(平成21年)の第21回アジア太平洋カップ、第25回ユニバーシアード代表に選ばれ、堺ブレイザーズに入団した内藤和也。2005年(平成17年)のワールドリーグ、ワールドグランドチャンピオンズカップに出場し、豊田合成トフェルサで活躍する松永理生。第12回Vリーグスパイク賞、ベスト6に選ばれ、全日本男子チームとして2007年(平成19年)ワールドカップ、2008年(平成20年)北京オリンピックに出場した松本慶彦。大学1年の時に全日本代表に選出され、2005年(平成17年)ワールドリーグ、2008年(平成20年)北京オリンピック出場、2009年(平成21年)のワールドグランドチャンピオンズカップでは全日本男子32年ぶりの銅メダル獲得とベストスパイカー賞を受賞、2008-2009年(平成20-21年)のVプレミアリーグでは新人賞を獲得した、現在全日本男子チームで活躍する福澤達哉らが挙げられる。これらの幅広い年代における男子・女子選手の活躍により、八王子がバレーボールのメッカであることは全国的に周知されている。

## 参考文献

- 八王子体育協会『創立20周年記念史』三宝社、1969年
- 八王子体育協会『創立30周年記念史』ヒラツカ印刷社、1976年
- 八王子体育協会『創立40周年記念史』ヒラツカ印刷社、1986年
- 八王子体育協会『創立60周年記念史』ふこく出版、2006年
- 八王子体育協会『体育協会史』ぎょうせい、1996年

(工学院大学 桂良寛)





## 目次

- 自然環境
- 歴史
- 史跡・遺跡
- 人物
- スポーツ
- 農業・林業
- 執筆者一覧
- リンク集

## 八王子の柔道

八王子の柔道の始まりは、今を去ること90年前(八王子が市制を布いて4年後)の大正10年10月に新興都市の意気に燃えた青年達の熱意が実を結び、『八王子市体育会柔道部道場』の建設(八王子市平岡町)となって現れた。

当時は坂本一角(創設者、衆議院議員)を中心に井上保、新井由松、小沢桑太郎らが「青少年の志操の高揚と、心身の鍛練」を目指して献身的に普及活動を行ったことにより、市内はもとより隣接町村、遠くは西多摩郡からも柔道修行者が参集し盛況であった。

昭和20年8月の戦火に見舞われるまで、数千名の柔道修行者を数え、有段者も300余名を輩出した。

創立より90年を経た八王子市体育会(現在の八王子市体育協会)は松村堅太(八王子市体育協会6代目会長)のもと充実期を迎え、東京都市町村総合体育大会での優勝など都内での活躍が目覚ましい。また、八王子市民柔道大会には市内の幼年から大学、一般まで500名を数える選手が集い、地域のスポーツ活性化に大きく貢献している。

現在、八王子の柔道は、八王子市体育協会をはじめ『田代道場』、『小山道場』、『さくら少年柔道教室』などの町道場や八王子、高尾、南大沢各警察署でも精力的に活動が行われ、青少年の健全育成や社会体育の普及振興に大きく寄与している。

近年、八王子市は有名柔道選手も多く輩出しており、八王子市出身の柔道選手はオリンピック出場を果たした中村美里(三井住友海上)が有名である。また、全日本柔道選手権大会(柔道大会ではもともと歴史が深く、由緒ある大会)には近野貞治、向川肇が出場を果たした。

参考文献 東京都八王子市体育協会

日本の武道(日本武道館)

(工学院大学附属高等学校 青木慎英)





## 目次

- 自然環境
- 歴史
- 史跡・遺跡
- 人物
- スポーツ
- 農業・林業
- 執筆者一覧
- リンク集

## 水泳を通して社会貢献できる楽しさ

科学技術が進歩し、高齢化が進む現代社会において、人生をより豊かに過ごし、健康で充実した生活を営むため、現在生涯学習の場が求められている。

中央大学では1986年12月に多摩キャンパスにおいて「中央大学クレセントアカデミー」が開設された。このクレセントアカデミーは、オープンカレッジ構想のもと、在学生と市民の共学の場として、中央大学の教室や体育施設等を利用し、誰もが参加できる各種講座を開講する事を主たる事業として始まった。現在も広く生涯学習やキャリアアップの場として活用されている。

水泳教室は1990年4月に初めて開講された。さらに翌1991年4月には子供水泳教室も開講され、20年の間市民の方々と共に歩んできた。

人間は母親の胎内にいるとき、羊水の中で浮いている。水の中は、日常生活とかけ離れて見えるが、実は、私たちが生まれる前にいた場所にとても良く似ている。さらに、水の中は外界からの刺激をシャットアウトできる心地よい場所でもある。

水には、(1)浮力、(2)水圧、(3)水温、(4)抵抗という4つの特性がある。浮力は、足腰にかかる負担が劇的に軽減されるため、現在腰痛で悩んでいる方々には水泳は特に勧められるスポーツである。陸上で行うことが難しい呼吸循環系の運動も水中では足腰に負担をかけずに問題なくできる。

水圧は、全身の血行を良くする効果があり、足のむくみなども軽減される。現在人気のトレッキングで1日中歩き回った後や、立ち続けるの仕事の後に入るプールは、むくんでしまった足に水圧がかかり、柔らかいマッサージ効果がある。

体温より低い水温のプールに浸かって皮膚表面の温度が下がっても、体が熱を発しようとして代謝が活発になり、体の深部温度は変わらない。代謝量が上がるということは、水の中にいるだけで、運動しているような効果があるということである。陸上では激しく動けない方々でも、水に入るだけで適度な運動になる。

水の中では水抵抗によって、特別な器具を使わなくても、自分で自在に運動強度を調節できる。水深の浅い所を歩くのと、水深の深い所を歩くのでは、水から受ける抵抗も全然違う。さらに、動作を速くしたり遅くしたりすることで、抵抗の大きさを変えることができる。自分自身で動きの速さや水に触れる面積を変えることで、自由自在に運動強度を調節できる。

水泳は、プールさえあれば何歳になっても、誰でも、いつでも、いつからでも気軽に始める事ができるスポーツである。今日では、多くの方々がさまざまな目的、目標のもとに水泳を楽しんでいる。なぜ、水泳は多くの人の心をとらえるのであろうか？この答えはやはり、楽しいという気持ちにある。

中央大学は125周年を迎えた。大学だけでなく教員、職員が、より一層社会貢献に取り組み、総合大学としての知識を、市民の方々と共に分かち合うことが重要な役割と考えている。

(中央大学水泳部監督 高橋雄介)

## 目次

- 自然環境
- 歴史
- 史跡・遺跡
- 人物
- スポーツ
- 農業・林業
- 執筆者一覧
- リンク集

## 農業・林業

### 林業施策の概要（りんぎょうせさくのがいよう）

各種林業団体と協力し、森林資源の保続培養と森林生産力の増強並びに森林の公益的機能の保持増進を図っている。(1)民有林の振興 ①林道維持管理 [市が管理している林道の刈払いを実施] ②下刈事業補助金 [造林した植林 [...]]

### 林業の概況（りんぎょうのがいきよう）

八王子市内の森林面積は、7,841haで市内面積のおよそ42%を占めている。人工的に植林したヒノキ・スギを「人工林」と呼び、その他のマツなどの針葉樹、ナラ・クヌギなどの広葉樹を「天然林」と呼んで区別するのが一般的である [...]

### 農業の概況（のうぎょうのがいきよう）

本市では、近年の急激な都市化の進展が農業に与えた影響はきわめて大きく大小さまざまな住宅団地の建設や工場・住宅用地への転用が相次ぎ、急激な農用地の減少がスプロール現象となってあらわれ、しかもこれらの影響が農家構造にも大き [...]



## 目次

- 自然環境
- 歴史
- 史跡・遺跡
- 人物
- スポーツ
- 農業・林業
- 執筆者一覧
- リンク集

## 林業施策の概要（りんぎょうせさくのかいよう）

各種林業団体と協力し、森林資源の保続培養と森林生産力の増強並びに森林の公益的機能の保持増進を図っている。

### (1) 民有林の振興

① 林道維持管理 [市が管理している林道の刈払いを実施]

② 下刈事業補助金 [造林した植林地に対し、以降7年間下刈事業費の2/10を助成]

③ 間伐事業補助金 [間伐した植林地に対し、20,000円/haを助成]

### (2) 森林管理巡視

民有林や林道の管理巡視を東京都森林組合に委託し、森林施策計画の現地確認・山火事防止の見回り等森林管理活動の充実を図っている。

### (3) 森林再生

手入れが行われず荒廃している、スギ・ヒノキの人工林について、東京都と所有者との協定を受けて間伐を行い、森林の機能の回復を図っている。

### (4) 枝打ち

森林再生事業で間伐を行った森林について、強度の枝打ちを行い、花粉の飛散量削減に取り組んでいる。

### (5) 色彩豊かな森事業

小面積の伐採と広葉樹の植栽を行うことで、スギ及びヒノキから発生する花粉の飛散量の削減と針広混交林化の促進を図っている。

### (6) 市行造林の管理

土地所有者と収益を分収する条件で民有林に造林を行ってきた市行造林地の保育管理を実施し、樹木の生育を図っている。[造林地数51箇所 面積79.19ha]

(八王子市産業振興部農林課 大塚敏明)



## 目次

- 自然環境
- 歴史
- 史跡・遺跡
- 人物
- スポーツ
- 農業・林業
- 執筆者一覧
- リンク集

## 林業の概況（りんぎょうのがいきょう）

八王子市内の森林面積は、7,841haで市内面積のおよそ42%を占めている。人工的に植林したヒノキ・スギを「人工林」と呼び、その他のマツなどの針葉樹、ナラ・クヌギなどの広葉樹を「天然林」と呼んで区別するのが一般的である。

主な林業地域である八王子西部地域では、古くから意欲的な林業経営が営まれてきたが、近年は木材価格の低迷、林業労働者の不足、作業賃金・資材の高騰等により林業経営が苦しくなっている現状にある。

一方、森林には木材を生産するだけでなく、水資源をはぐくみ、二酸化炭素を吸収するなど多くの機能があり、そこで八王子市は「市有林」の維持管理のほか土地所有者との契約に基づき「市行造林事業」を行っている。

市では主に人工林の育成管理を行うが、国土保全・保健休養・観光の面から森林の公益的機能を考慮し、林業の活性化を東京都森林組合（林業者の出資組合）と共に行っている。また、林道を維持管理し、林業者の経営意欲を向上させる一方、森林の公益機能とも調和を図りながら地域林業の振興に努めている。

### 森林整備計画の策定

森林資源に関する基本計画として農林水産大臣が全国森林計画を策定し、それを受けて東京都知事が多摩地域森林計画を策定する。その計画に沿って各種の事業が行われる。

### 全国森林計画

{計画期間: 1941年4月1日から2019年3月31日まで}

### 多摩森林計画

{計画期間: 2006年4月1日から2016年3月31日まで}

### 市町村森林整備計画

{計画期間: 2006年4月1日から2016年3月31日まで}

(八王子市産業振興部農林課 大塚敏明)



## 目次

- 自然環境
- 歴史
- 史跡・遺跡
- 人物
- スポーツ
- 農業・林業
- 執筆者一覧
- リンク集

## 農業の概況（のうぎょうのがいきょう）

本市では、近年の急激な都市化の進展が農業に与えた影響はきわめて大きく大小さまざまな住宅団地の建設や工場・住宅用地への転用が相次ぎ、急激な農用地の減少がスプロール現象となってあらわれ、しかもこれらの影響が農家構造にも大きく作用し、経営面積の縮小と兼業化への移行、若年労働者の他分野への流出を余儀なくさせ、農業後継者をはじめとする担い手の確保と育成が大きな課題となっている。

しかし、元来、気候温暖にして豊かな自然の恵みを受けて、肥沃な土壌は農耕に適しており、大消費地を抱えた地場産のメリットを生かして意欲的な経営に取り組む農家も多くみられる。

このような状況下において本市では、新鮮で安心・安全な農産物を市民へ供給すること、また、都市の防災機能、緑地として生活に潤いを与える場所を提供することなど、都市農業の持つ重要性に着目し、都市計画法等の土地利用政策との調整をはかりながら農業生産基盤としての農地の保全に努め、魅力と活力ある産業として再生し、「市民」「農業者」「市(行政)」それぞれが役割を持ち、しっかりと手を結ぶことで市民生活に一層貢献できるよう活動している。

近年、生産・出荷体制は、農業者組織による市場出荷に加え、多品目少量生産によるスーパー等との契約出荷、直売所や庭先販売などの直売方式への転換が見られる。

2007年にオープンした「道の駅八王子滝山」に大型直売所『ファーム滝山』を併設し地元の農畜産物を提供できる体制を確立し、なお一層の地産地消を推進している。

### 【地区別の特色】

八王子の農業は、かつては水稻・養蚕・芋類が中心だったが、近年は市民の農業に対する意識の高まりやニーズに応えるため、都市農業の持つ多面的機能を発揮した農業が営まれており、各地区には以下のような特色がみられる。

#### ★八王子地区★

市の中心部に位置するこの地区は、全域が市街化区域だが、石川・大谷・宇津木地区には優良な農地が広がっており、施設を利用したトマト・なす・きゅうりなどの栽培も盛んで、中野地区では、ほうれんそう共販出荷組合を立ち上げ差別化を図っている。

#### ★加住地区★

多摩川と秋川の合流点、あきる野市との境の高月町では東京都で一番広い水田が広がり、野菜・畜産・椎茸などの複合経営が特徴である。特に、東京しゃも・TOKYO-Xという豚肉のブランド品の生産や、合鴨を利用した稲作など意欲的な取り組みが見られる。

2007年4月には、都内初となる「道の駅八王子滝山」がオープンし、毎年100万人を超える来場者を数え、『八王子の新名所』として連日大変なにぎわいをみせている。

併設の大型農産物直売所『ファーム滝山』では、新鮮で安心、安全な地場農畜産物を市民等に提供している。

#### ★川口地区★

檜原・犬目・川口地区は、平坦で優良な農地があり、施設トマト・花心白菜・きゅうりなど多品目の野菜を生産している。

また、上川地区ではじゃがいもの掘り取りや野菜の直売も行っている。

#### ★元八王子地区★

野菜、椎茸、稲作及び花卉などを中心に栽培している地区で、かつて養蚕農家が多く点在したこともあり、所々に桑畑が見られるが、現在養蚕農家はない。

#### ★恩方地区★

中山間地で耕地も狭く傾斜地も多いことから、観光農業としてのブルーベリーの摘み取りが盛んで、ジャムの加工販売にも取り組んでいる地域である。

また、シクラメン・ランなど花卉の生産(直売)も行われている。

#### ★浅川・由井・横山地区★

小比企の丘陵地にまとまった畑があり、だいこん・かぶ・トウモロコシなどが栽培され、減農薬など環境に配慮した農業に積極的に取り組んでいる。

販売方法として市場出荷が多いものの、個人でスーパー等の契約販売・直売所出荷もみられる。花卉栽培も盛んで、規模の大きな酪農家ではヨーグルト加工・販売なども行っている。

★由木地区★

多摩ニュータウンの開発に伴い急速に農地が減少し、市内で最も都市化が進んでいる地区であるが、若い農業後継者が多く、ほうれんそうや小松菜などの野菜や花卉、椎茸などを中心に多種多様の農業が営まれている。

(八王子市産業振興部農林課 立川記啓)



趣旨 お問い合わせ

Copyright © 2011 Hachioji Dictionary All rights Reserved

## 目次

- 自然環境
- 歴史
- 史跡・遺跡
- 人物
- スポーツ
- 農業・林業
- 執筆者一覧
- リンク集

## 執筆者一覧

氏名	大塚 敏明
所属	八王子市産業振興部農林課
八王子に関するメッセージ	林業を取り巻く状況は厳しいものですが、林業振興の新たな発展のため努力しています。

氏名	開沼 正(かいぬま ただし)
所属	創価大学 講師 博士(文学) 日本近世史専攻 (研究課題は近世庶民の生活、八王子千人同心など)
八王子に関するメッセージ	八王子市民になったことは一度もありませんが、八王子には郷土愛に似た気持ちをもっております。 55万人を超える人口の割には豊かな自然も残されています。多くの方に八王子を知っていただけたら嬉しく思います。

氏名	坂井 孝一(さかい こういち)
所属	創価大学文学部教授、文学修士、日本中世史、鎌倉時代初期政治史・室町時代芸能史
八王子に関するメッセージ	八王子は、古代から中世にかけて著名な武士団横山党が活躍した地であり、また中世末期には後北条氏の支城滝山城や片倉城を舞台として戦国の合戦が展開した現場でもある。そうした歴史の重みにぜひ思いをめぐらせてほしい。

氏名	季武 嘉也(すえたけ よしや)
所属	創価大学文学部、教授、博士(文学)、日本近現代政治史、選挙を通してみる近現代
八王子に関するメッセージ	広い市域を持つ八王子市がより有機的に結びつき、活性化することを期待しています。

氏名	諏訪 祥子
所属	浅川流域市民フォーラム 事務局
八王子に関するメッセージ	浅川流域市民フォーラムでは、2004年から「身近な水環境の全国一斉調査」に多くの市民団体等と参加し、浅川流域水質マップの作成・配布によってより多くの人に身近な川について知ってもらおう活動をしています。

氏名	立川 記啓
所属	八王子市産業振興部農林課
八王子に関するメッセージ	市民の皆様にも、安心・安全な農畜産物を提供できるよう、道の駅八王子滝山を拠点に、地産地消を積極的に推進しています。

氏名	幡野 龍一(はたの りゅういち)
所属	工学院大学教職課程非常勤講師
八王子に関するメッセージ	防人たちの多摩の横山、近世への契機・八王子城落城、養蚕と織物・絹の道、自由民権運動など豊かな歴史を刻む八王子の歩みを発掘し語りあい、未来への飛躍のエネルギーを創ってまいりましょう。



氏名	若松 昭秀(わかまつ あきひで)
所属	工学院大学理科教育センター 講師
八王子に関するメッセージ	失われた自然は戻らない。環境アセスメントによる開発で自然環境を保持し後生に大切に残していきたい



## 目次

- 自然環境
- 歴史
- 史跡・遺跡
- 人物
- スポーツ
- 農業・林業
- 執筆者一覧
- リンク集

## リンク集

八王子市役所	<a href="http://www.city.hachioji.tokyo.jp">http://www.city.hachioji.tokyo.jp</a>
大学コンソーシアム八王子	<a href="http://www.gakuen-hachioji.jp">http://www.gakuen-hachioji.jp</a>
ハチペディア	<a href="http://hachipedia.org">http://hachipedia.org</a>





## 目次

- 自然環境
- 歴史
- 史跡・遺跡
- 人物
- スポーツ
- 農業・林業
- 執筆者一覧
- リンク集

## お探しのページが見つかりません

申し訳ございません。お探しのページは見つかりませんでした。

ご覧になっていたページからのリンクが無効になっているか、URLのタイプミス可能性があります。

下記の検索機能をご利用ください。



**八王子がわかる事典** 八王子を愛する人達で運営しております。八王子の魅力を是非！

サイト内検索...

**目次**

- 自然環境
- 歴史
- 史跡・遺跡
- 人物
- スポーツ
- 農業・林業
- 執筆者一覧
- リンク集



ウッドチップの道標とコラボ

運営 お問い合わせ

Copyright © 2011 Hachioji Dictionary All rights Reserved.

**八王子がわかる事典** 八王子を愛する人達で運営しております。八王子の魅力を是非！

サイト内検索...

**目次**

- 自然環境
- 歴史
- 史跡・遺跡
- 人物
- スポーツ
- 農業・林業
- 執筆者一覧
- リンク集



スカイタワー

運営 お問い合わせ

Copyright © 2011 Hachioji Dictionary All rights Reserved.

**八王子がわかる事典** 八王子を愛する人達で運営しております。八王子の魅力を是非！

サイト内検索...

**目次**

- 自然環境
- 歴史
- 史跡・遺跡
- 人物
- スポーツ
- 農業・林業
- 執筆者一覧
- リンク集



サマーランドあじさい山

運営 お問い合わせ

Copyright © 2011 Hachioji Dictionary All rights Reserved.

**八王子がわかる事典** 八王子を愛する人達で運営しております。八王子の魅力を是非！

サイト内検索...

**目次**

- 自然環境
- 歴史
- 史跡・遺跡
- 人物
- スポーツ
- 農業・林業
- 執筆者一覧
- リンク集



了法寺

運営 お問い合わせ

Copyright © 2011 Hachioji Dictionary All rights Reserved.

**八王子がわかる事典** 八王子を愛する人達で運営しております。八王子の魅力を是非！

サイト内検索...

**目次**

- 自然環境
- 歴史
- 史跡・遺跡
- 人物
- スポーツ
- 農業・林業
- 執筆者一覧
- リンク集



スカイタワー

運営 お問い合わせ

Copyright © 2011 Hachioji Dictionary All rights Reserved.

**八王子がわかる事典** 八王子を愛する人達で運営しております。八王子の魅力を是非！

サイト内検索...

**目次**

- 自然環境
- 歴史
- 史跡・遺跡
- 人物
- スポーツ
- 農業・林業
- 執筆者一覧
- リンク集



今熊山のミツハツツジ

運営 お問い合わせ


Copyright © 2011 Hachioji Dictionary All rights Reserved.

**八王子がわかる事典** 八王子を愛する人達で運営しております。  
八王子の魅力を紹介！

サイトの検索...

**目次**

- 自然環境
- 歴史
- 史跡・遺跡
- 人物
- スポーツ
- 農業・林業
- 執筆第一展
- リンク集



千賀神輿

運営 お問い合わせ


Copyright © 2011 Hachioji Dictionary All rights Reserved.

**八王子がわかる事典** 八王子を愛する人達で運営しております。  
八王子の魅力を紹介！

サイトの検索...

**目次**

- 自然環境
- 歴史
- 史跡・遺跡
- 人物
- スポーツ
- 農業・林業
- 執筆第一展
- リンク集



八王子まつり

運営 お問い合わせ

Copyright © 2011 Hachioji Dictionary All rights Reserved.

**八王子がわかる事典** 八王子を愛する人達で運営しております。  
八王子の魅力を紹介！

サイトの検索...

**目次**

- 自然環境
- 歴史
- 史跡・遺跡
- 人物
- スポーツ
- 農業・林業
- 執筆第一展
- リンク集



千賀神輿

運営 お問い合わせ

Copyright © 2011 Hachioji Dictionary All rights Reserved.

**八王子がわかる事典** 八王子を愛する人達で運営しております。  
八王子の魅力を紹介！

サイトの検索...

**目次**

- 自然環境
- 歴史
- 史跡・遺跡
- 人物
- スポーツ
- 農業・林業
- 執筆第一展
- リンク集



八王子まつり

運営 お問い合わせ

Copyright © 2011 Hachioji Dictionary All rights Reserved.

**八王子がわかる事典** 八王子を愛する人達で運営しております。  
八王子の魅力を紹介！

サイトの検索...

**目次**

- 自然環境
- 歴史
- 史跡・遺跡
- 人物
- スポーツ
- 農業・林業
- 執筆第一展
- リンク集



千賀神輿

運営 お問い合わせ

Copyright © 2011 Hachioji Dictionary All rights Reserved.

**八王子がわかる事典** 八王子を愛する人達で運営しております。  
八王子の魅力を紹介！

サイトの検索...

**目次**

- 自然環境
- 歴史
- 史跡・遺跡
- 人物
- スポーツ
- 農業・林業
- 執筆第一展
- リンク集



金岡東夢街道軒伝

運営 お問い合わせ


Copyright © 2011 Hachioji Dictionary All rights Reserved.

**八王子がわかる事典** 八王子を愛する人達で運営しております。八王子の魅力を楽しみましょう！

サイトの検索...

**目次**

- 自然環境
- 歴史
- 史跡・遺跡
- 人物
- スポーツ
- 農業・林業
- 執筆者一覧
- リンク集



八王子城跡

運営 お問いい合わせ社 Copyright © 2011 Hachioji Dictionary All rights Reserved.

**八王子がわかる事典** 八王子を愛する人達で運営しております。八王子の魅力を楽しみましょう！

サイトの検索...

**目次**

- 自然環境
- 歴史
- 史跡・遺跡
- 人物
- スポーツ
- 農業・林業
- 執筆者一覧
- リンク集



八王子駅

運営 お問いい合わせ社 Copyright © 2011 Hachioji Dictionary All rights Reserved.

**八王子がわかる事典** 八王子を愛する人達で運営しております。八王子の魅力を楽しみましょう！

サイトの検索...

**目次**

- 自然環境
- 歴史
- 史跡・遺跡
- 人物
- スポーツ
- 農業・林業
- 執筆者一覧
- リンク集



八王子城跡

運営 お問いい合わせ社 Copyright © 2011 Hachioji Dictionary All rights Reserved.

**八王子がわかる事典** 八王子を愛する人達で運営しております。八王子の魅力を楽しみましょう！

サイトの検索...

**目次**

- 自然環境
- 歴史
- 史跡・遺跡
- 人物
- スポーツ
- 農業・林業
- 執筆者一覧
- リンク集



八王子祭り

運営 お問いい合わせ社 Copyright © 2011 Hachioji Dictionary All rights Reserved.

**八王子がわかる事典** 八王子を愛する人達で運営しております。八王子の魅力を楽しみましょう！

サイトの検索...

**目次**

- 自然環境
- 歴史
- 史跡・遺跡
- 人物
- スポーツ
- 農業・林業
- 執筆者一覧
- リンク集



八王子市役所

運営 お問いい合わせ社 Copyright © 2011 Hachioji Dictionary All rights Reserved.

**八王子がわかる事典** 八王子を愛する人達で運営しております。八王子の魅力を楽しみましょう！

サイトの検索...

**目次**

- 自然環境
- 歴史
- 史跡・遺跡
- 人物
- スポーツ
- 農業・林業
- 執筆者一覧
- リンク集



八王子市役所


運営 お問いい合わせ社 Copyright © 2011 Hachioji Dictionary All rights Reserved.

**八王子がわかる事典** 八王子を愛する人達で運営しております。八王子の魅力を紹介！

サイトの検索...

**目次**

- 自然環境
- 歴史
- 交遊・道跡
- 人物
- スポーツ
- 農業・林業
- 執筆第一巻
- リンク集



八王子駅

運営 お問いい合わせ Copyright © 2011 Hatched Dictionary All rights Reserved.

**八王子がわかる事典** 八王子を愛する人達で運営しております。八王子の魅力を紹介！

サイトの検索...

**目次**

- 自然環境
- 歴史
- 交遊・道跡
- 人物
- スポーツ
- 農業・林業
- 執筆第一巻
- リンク集



浅川のサクラ

運営 お問いい合わせ Copyright © 2011 Hatched Dictionary All rights Reserved.

**八王子がわかる事典** 八王子を愛する人達で運営しております。八王子の魅力を紹介！

サイトの検索...

**目次**

- 自然環境
- 歴史
- 交遊・道跡
- 人物
- スポーツ
- 農業・林業
- 執筆第一巻
- リンク集



八王子駅

運営 お問いい合わせ Copyright © 2011 Hatched Dictionary All rights Reserved.

**八王子がわかる事典** 八王子を愛する人達で運営しております。八王子の魅力を紹介！

サイトの検索...

**目次**

- 自然環境
- 歴史
- 交遊・道跡
- 人物
- スポーツ
- 農業・林業
- 執筆第一巻
- リンク集



放村線通りイベント

運営 お問いい合わせ Copyright © 2011 Hatched Dictionary All rights Reserved.

**八王子がわかる事典** 八王子を愛する人達で運営しております。八王子の魅力を紹介！

サイトの検索...

**目次**

- 自然環境
- 歴史
- 交遊・道跡
- 人物
- スポーツ
- 農業・林業
- 執筆第一巻
- リンク集



八王子駅


運営 お問いい合わせ Copyright © 2011 Hatched Dictionary All rights Reserved.

**八王子がわかる事典** 八王子を愛する人達で運営しております。八王子の魅力を紹介！

サイトの検索...

**目次**

- 自然環境
- 歴史
- 交遊・道跡
- 人物
- スポーツ
- 農業・林業
- 執筆第一巻
- リンク集



晩椿夕焼け

運営 お問いい合わせ Copyright © 2011 Hatched Dictionary All rights Reserved.

**八王子がわかる事典** 八王子を愛する人達で運営しております。  
八王子の魅力を紹介！

サイト内検索

**目次**

- 自然環境
- 歴史
- 史跡・遺跡
- 人物
- スポーツ
- 農業・林業
- 執筆者一覧
- リンク集



浅川の鯉のぼり

運営 お願いのむすび Copyright © 2011 Hachioji Dictionary All rights Reserved.

**八王子がわかる事典** 八王子を愛する人達で運営しております。  
八王子の魅力を紹介！

サイト内検索

**目次**

- 自然環境
- 歴史
- 史跡・遺跡
- 人物
- スポーツ
- 農業・林業
- 執筆者一覧
- リンク集



高尾山ケーブル駅

運営 お願いのむすび Copyright © 2011 Hachioji Dictionary All rights Reserved.

**八王子がわかる事典** 八王子を愛する人達で運営しております。  
八王子の魅力を紹介！

サイト内検索

**目次**

- 自然環境
- 歴史
- 史跡・遺跡
- 人物
- スポーツ
- 農業・林業
- 執筆者一覧
- リンク集



藤森公園花火大会

運営 お願いのむすび Copyright © 2011 Hachioji Dictionary All rights Reserved.

**八王子がわかる事典** 八王子を愛する人達で運営しております。  
八王子の魅力を紹介！

サイト内検索

**目次**

- 自然環境
- 歴史
- 史跡・遺跡
- 人物
- スポーツ
- 農業・林業
- 執筆者一覧
- リンク集



高尾山の天狗

運営 お願いのむすび Copyright © 2011 Hachioji Dictionary All rights Reserved.

**八王子がわかる事典** 八王子を愛する人達で運営しております。  
八王子の魅力を紹介！

サイト内検索

**目次**

- 自然環境
- 歴史
- 史跡・遺跡
- 人物
- スポーツ
- 農業・林業
- 執筆者一覧
- リンク集



長池公園

運営 お願いのむすび Copyright © 2011 Hachioji Dictionary All rights Reserved.

**八王子がわかる事典** 八王子を愛する人達で運営しております。  
八王子の魅力を紹介！

サイト内検索

**目次**

- 自然環境
- 歴史
- 史跡・遺跡
- 人物
- スポーツ
- 農業・林業
- 執筆者一覧
- リンク集



長池公園

運営 お願いのむすび Copyright © 2011 Hachioji Dictionary All rights Reserved.



八王子がわかる事典 八王子を聖する人達で運営しております。八王子の魅力を是非！ [サイト内検索...](#)

**目次**

- 自然環境
- 歴史
- 史跡・遺跡
- 人物
- スポーツ
- 農業・林業
- 執筆第一覧
- リンク集



高尾山薬王院

運営 志摩いんむら Copyright © 2011 Netbird Dictionary All rights Reserved.

八王子がわかる事典 八王子を聖する人達で運営しております。八王子の魅力を是非！ [サイト内検索...](#)

**目次**

- 自然環境
- 歴史
- 史跡・遺跡
- 人物
- スポーツ
- 農業・林業
- 執筆第一覧
- リンク集



高尾梅郷

運営 志摩いんむら Copyright © 2011 Netbird Dictionary All rights Reserved.

八王子がわかる事典 八王子を聖する人達で運営しております。八王子の魅力を是非！ [サイト内検索...](#)

**目次**

- 自然環境
- 歴史
- 史跡・遺跡
- 人物
- スポーツ
- 農業・林業
- 執筆第一覧
- リンク集



高尾山天狗

運営 志摩いんむら Copyright © 2011 Netbird Dictionary All rights Reserved.

八王子がわかる事典 八王子を聖する人達で運営しております。八王子の魅力を是非！ [サイト内検索...](#)

**目次**

- 自然環境
- 歴史
- 史跡・遺跡
- 人物
- スポーツ
- 農業・林業
- 執筆第一覧
- リンク集



高尾山

運営 志摩いんむら Copyright © 2011 Netbird Dictionary All rights Reserved.

八王子がわかる事典 八王子を聖する人達で運営しております。八王子の魅力を是非！ [サイト内検索...](#)

**目次**

- 自然環境
- 歴史
- 史跡・遺跡
- 人物
- スポーツ
- 農業・林業
- 執筆第一覧
- リンク集



高尾山薬王院

運営 志摩いんむら Copyright © 2011 Netbird Dictionary All rights Reserved.

2011年11月 日

各位

『八王子がわかる事典』編集委員長  
(東京工業高等専門学校 准教授)  
浅野 敬 一

『八王子がわかる事典』執筆について (依頼)

時下益々御清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、『八王子がわかる事典』は、文部科学省戦略的大学連携支援事業（2008～2010年度）に選定された「八王子未来学」プロジェクト（正式名称：八王子未来学の構築を目指した大学・市民・行政からなる大学連携と実践活動の高度化）から生まれました。「八王子未来学」は「八王子を学ぶ、八王子で学ぶ」をテーマとする各種の課題研究や教育事業を展開し、補助事業期間の終了後は、大学コンソーシアム八王子の事業として地域全体が学びの場となる「まるごとキャンパス八王子」の実現を目指した活動を続けております。

『八王子がわかる事典』は、地域における学びを支援し八王子の新たな未来と可能性を拓くための基礎的な資料となるよう、八王子の歴史、文化、産業、自然等を統一的に整理、webにより提供するもので、2011年3月から公開を開始しました。現在は項目数も限られていますが、項目の拡充と更新を継続的に行う計画になっています。

つきましては、八王子に造詣の深い貴殿に執筆への御協力を賜りたく、御願い申し上げます。

なお、執筆の際には、別紙『八王子がわかる事典』項目執筆規定及び『八王子がわかる事典』執筆要項を御参照頂くよう重ねて御願い申し上げます。

『八王子がわかる事典』編集委員会事務局  
(大学コンソーシアム八王子内)  
TEL /FAX 042-646-5740 / 042-646-2663  
E-mail : jimukyoku88@conso-hachioji.or.jp

## 『八王子がわかる事典』項目執筆規定

制定：2010年10月15日

1. 執筆は、原則として大学コンソーシアム八王子に加盟する大学、短期大学、高等専門学校（以下、「加盟大学等」という。）に所属する者（専任に限らない）とする。ただし、編集委員会の推薦があれば、これ以外の者でも執筆できる。
2. 項目の内容は、地域に対する知的貢献という本事典の目的に沿ったものとする。また、執筆に際しては、幅広い市民が活用できるよう、平易な表現に努めることとする。
3. 原稿料等は支払わない。
4. 原稿は別に定める執筆要項にしたがい作成する。
5. 引用・参照箇所等の著作権処理については、執筆者がその責任を負う。
6. 執筆された原稿は、編集委員会において審査する。なお、編集委員会は、必要に応じて、編集委員以外の者に審査の一部を委嘱することがある。
7. 編集委員会は、必要に応じて、『八王子がわかる事典』掲載後の項目を再編集する場合がある。この場合は、再編集した旨を明記する。

## 『八王子がわかる事典』執筆要項

制定：2010年10月15日

改正：2011年10月19日

1. 原稿は横書きとし、テンプレート（マイクロソフト・ワード、40字×30行、MS明朝、10.5ポイント）において作成する。
2. 文章・用字・用語は、口語体（である調）・新仮名遣・常用漢字を原則とする。細部は、編集委員会で統一する場合がある。
3. 句読点は、「、」「。」方式とする。
4. 数字は原則としてアラビア数字を使用する。ただし、桁数の多い数字の場合は、漢字を含めた表記も認める。  
例) 1億2000万人
5. 項目名の後には、読み仮名を付す。  
例) 八王子未来学（はちおうじみらいがく）
6. 人名項目の場合は、読み仮名と生没年を付す。  
例) 後藤聰一（ごとう そういち、1919年～2003年）  
人名項目のうち、外国人名については次のとおりとする。  
欧米人の場合：ファースト・ネーム、ファミリー・ネームの順にカタカナで示し、続けて原綴りと生没年を付す。  
例) エイブラハム・リンカーン（Abraham Lincoln, 1809年～1865年）  
中国人の場合：姓、名の順に漢字で示し、続けて読み仮名、ピンインのカタカナ読み及びピンインを付し、さらに生没年を付す。  
例) 毛沢東（もう たくとう、マオ・ツォートン、Mao Zedong, 1893年～1976年）  
朝鮮人の場合：姓、名の順にルビ付き漢字で示し、続けてカタカナ読みとハングルを付し、さらに生没年を付す。  
例) 金大中（キム・デジュン、○○○、1925年～2009年）
7. 本文中においても難読文字（地名、人名など）には、必要に応じて（ ）に読み仮名を付す。
8. 新字体を基本とし、必要に応じて（ ）に正字を付す。  
例) 浅川（淺川）
9. 本文中において、会社、学校、その他団体等を記す場合は、原則として次のとおりとする。  
八王子市内の団体等の場合：（ ）に八王子市と町名を付す。  
例) ㈱八王子（八王子市元横山町）

東京工業高等専門学校（八王子市櫛田町）

八王子市外の団体等の場合：

例 1) 特別区の場合：経済産業省（東京都千代田区）

例 2) 政令指定都市の場合：相模原市観光協会（相模原市中央区）

例 3) その他：東京外国語大学（東京都府中市）

10. 中項目・小項目とも、原則として 3000 字以内とする。3000 字を超えるものについては、中項目の場合は小項目の設定を、小項目の場合は項目の分割を検討するので、編集委員会に申し出ること。
11. 本文を分割して記述するまたは箇条書きにする場合の記号は、次の順序で使用する。
  - 〔第 1 段階〕 (1)、(2)、(3)・・・
  - 〔第 2 段階〕 ①、②、③・・・
  - 〔第 3 段階〕 (ア)、(イ)、(ウ)・・・
12. 年は西暦換算で表記し、必要な場合は（ ）年号を記す。なお、1872 年 12 月 3 日（太陽暦採用）以前も、便宜的に西暦換算で表記し、必要に応じて（ ）に和暦を記す。
  - 例) 2010 年（平成 22 年）
  - 例) 1867 年 11 月 9 日（慶応 3 年 10 月 14 日）
13. 写真は、次によりデジタルデータで提出する。
  - ・ファイル方式：**JPEG**
  - ・ピクセルサイズ：**300×500（縦長の場合）または 500×300（横長の場合）**
  - ・ファイル名：通し番号をつける。
  - ・写真の説明：撮影対象や撮影場所等に関する説明をつける。説明文はファイル名の通し番号との対応を明らかにし、Word 等にて提出する。
14. 図表は、すべてテンプレートの中に組み込むこととする。
15. 項目の末尾には、執筆の際の参考文献だけでなく、読者が項目の内容をさらに調査するために役立つよう、なるべく多くの「関連情報」を入れる。なお、「関連情報」の表記法は以下のとおりとする。
  - 〔Web ページ〕 ①制作者、②資料名、③制作年、④URL（参照時点）
    - 例) 厚生労働省職業能力開発局『若年者キャリア支援研究会報告書』2003 年、URL:  
<http://www.mhlw.go.jp/houdou/2003/09/h0919/5e.html>（2010 年 2 月現在）。
  - 〔単行本（和文）〕 ①著者名、②書名、③必要に応じて全集名等、④出版社、⑤初版刊行年。
    - 例) 清成忠男『日本中小企業政策史』有斐閣、2009 年。  
木下武徳『アメリカ福祉の民間化』アメリカの財政と福祉国家 10、日本経済評論社、2007 年。
  - 〔雑誌（和文）〕 ①執筆者名、②論文名、③雑誌名、④巻・号、⑤刊行年、⑥頁。

例) 浅野敬一「平時経済における中小企業政策形成への模索—1950年中小企業法案の意義と限界—」『アメリカ経済史研究』第6号、2007年10月、21-40頁。

[単行本(外国語)] ①著者名、②書名:イタリック、③出版社(出版社不明の場合は出版地)、④初版刊行年。

例) Eichengrenn, Barry, *Globalizing Capital: A History of the International Monetary System*, Princeton University Press, 1996.

Jones, Eric L., *European Miracle: Environments, Economies and Geopolitics in the History of Europe and Asia*, Cambridge University Press, 1981 (エリック・ジョーンズ/安本稔・脇村孝平訳『ヨーロッパの奇跡—環境・経済・地政の比較史』名古屋大学出版会、2000年)。

[雑誌(外国語)] ①執筆者名、②論文名、③雑誌名:イタリック、④巻・号、⑤刊行年。

例) Livesay, Harold C., “Entrepreneurial Dominance in Businesses”, *Business History Review*, vol.63, 1989, pp.1-21.

16. 執筆者校正は、原則として、html形式にて初校1回とする。

17. 項目の末尾には執筆者名を入れ、執筆者名は執筆者紹介にリンクさせる。執筆者は次の例に従い、執筆者紹介の原稿を併せて提出する。

氏名、所属(研究者の場合は、職位、学位、専門分野、研究課題を含む)、八王子に関するメッセージ(100字程度)

例) 浅野敬一、東京工業高等専門学校一般教育科、准教授、博士(文学)、経済史、日本と米国における中小企業政策の形成過程、「学生とともに地域の中小企業を調査しています。ぜひ、学生との交流に御協力ください。」

例) 浅野敬一、八王子市産業振興部産業政策課、「元気な八王子を実現するために、地域の企業を支援しています。お気軽にご相談ください。」

18. 原稿は、電子メールに添付して次まで提出する。

『八王子がわかる事典』編集委員会事務局(大学コンソーシアム八王子内)

[jimukyoku88@conso-hachioji.or.jp](mailto:jimukyoku88@conso-hachioji.or.jp)



